取扱説明書

Maxi Move

001.25060.JP Rev 19 • 11/2022

arjo
EMPOWERING MOVEMENT

警告

怪我を避けるため、製品を使用する前に必ず本取扱説明書及び付属の文書をよくお読みください。

本取扱説明書を必ずお読み下さい

意匠方針と著作権

® および ™ は Arjo グループが所有する商標です。

© Arjo 2022.

当社のポリシーの一つは継続的な製品の改善を掲げているため、事前に通知することなく設計を変更する場合があります。この出版物の内容は、全部もしくは一部に関わらず Arjo の同意なしに、転写することを禁じられています。

目次

一般情報 5
はじめに 5
本取扱説明書で使用する定義 5
製造元情報 5
使用目的 5
条件 6
耐用年数 6
利用者様の移乗に必要な介助者の人数に関する方針 6
安全の手順 7
記号 7
在宅環境に関する注意事項 8
製品説明 / 機能 9
この取扱説明書で参照する部品 9
スプレッダーバー 10
スリング 11
操作方法と機能 13
コントロール手元スイッチ 13
コントロールパネル 13
緊急停止ボタン （赤） 13
電源ボタン （緑） 13
システム故障時の巻き下げ機構 14
自動カットアウト 14
クラッシュ防止システム 14
バッテリーインジケーター 14
スリープモード 14
使用量カウンター 15
幅調節可能なシャーシ脚部 15
キャスターブレーキ 15
ジブとスプレッダーバー / ストレッチャーフレーム 15
MAXI MOVE の使用 16
利用者様に使用する前に 16
電動開閉 「V」シャーシ 16
MAXI MOVE 「ロックアンドロード」システム 16
取付具のテスト 17
DPS スプレッダーバーの使用 18
椅子からの持ち上げ方法 18
ベッドから持ち上げるには 19
床からの持ち上げ方法 21
電動 DPS スプレッダーバー 22
電動式 DPS スプレッダーバーの管理 23
ループ・スプレッダーバーの使用 23
椅子からの持ち上げ方法 24
ベッドから持ち上げるには 25
床から持ち上げるには 25
ストレッチャーフレームの使用 25
ソフトストレッチャーの使用 25
ストラップストレッチャーの使用 27
体重計 30
体重計に関する情報 30
記述的なマーク / シール C.E. （C.E. ユニットのみ） 30
再検査 30
表示記号 / 機能 30
過重量警告記号 31
方法 A - 利用者様がスリング懸架される前の計量 31
方法 B - 既にスリング懸架された利用者様の計量 32
測定単位 33

目次

体重計 - 手元スイッチに関する注意事項ミニガイド 34
バッテリー充電中 36
バッテリー 36
バッテリーの取り外し 36
バッテリーの充電 36
バッテリーと充電器の安全対策 37
MAXI MOVE の手入れ 38
スリングの洗浄と管理 38
リフトの洗浄、消毒、ケア 38
目に見える残留物の除去 38
洗浄 38
消毒 39
必須の日常点検 40
定期的なテスト 40
点検整備に関するアドバイス 40
トラブルシューティング 41
ラベル 42
技術仕様 43
リフト寸法 44
付録 - 体重計重力コード設定 46
電磁両立性 47
電磁コンプライアンス 47
電磁エミッション 47
電磁イミュニティ 48

一般情報

はじめに

この度は、Arjo 製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

当社はお客様のニーズにお応えすることに専念しており、最高の製品とともに、お客様のスタッフが Arjo 製品から最大のメリットを引き出せるよう、製品トレーニングも提供しております。

Arjo 製品に関する詳細な情報が必要な場合や予想外の出来事が起こった場合、または設定、使用、または保守に関するサポートが必要な場合は、当社までご連絡ください。

医療機器もしくは福祉機器に関連して、お客様または利用者様に影響する重大な事象が発生した場合は、その事象を機器製造元あるいは販売元に必ず報告してください。欧州連合では、全てのユーザは、重大な事象を居住する加盟国の所轄官庁にも報告する義務があります。

これら注意事項では、「利用者様」は持ち上げられる個人を指し、「介助者」は MAXI MOVE を操作する個人を指します。

本説明書に記載されている技術は、利用者様にスリングを装着し、リクライニング（半座位）姿勢から利用者様を持ち上げるための技術であり、利用者様が臥位を取る場所にかかわらず（ベッド上またはいかなる場所）使用することができます。

同様に、利用者様を椅子から持ち上げる際は、車椅子から持ち上げるか、またはベッドで端座位姿勢から持ち上げる場合と同じ手法を利用します。

注記：利用者様をサポートするために二人目の介助者が必要かどうかは、各事例ごとに判断する必要があります。

本説明書では、ダイナミックポジショニングシステム（DPS）と使用されているクリップ取付スリングと、ループスプレッダーバー用のループ取付スリングとの両方が具体的に示されています。標準 DPS 用に記述された方法と技術は、オプションの電動式 DPS にも適用することができます。

本取扱説明書で使用する定義

警告：

意味：これらの使用方法や注意事項をよく理解し、かつ従わなければ、使用者自身および利用者様の怪我の原因となることがあります。

注意：

意味：これらの注意事項に従わなければ、本製品の不具合の原因になることがあります。

注記：

意味：これは、本製品の正しい使用に関する重要な情報です。

製造元情報

ArjoHuntleigh AB
Hans Michelsensgatan 10
211 20 Malmö
SWEDEN （スウェーデン）

使用目的

警告：Arjo は、不適切な部品の使用に起因する可能性がある怪我を避けるため、Arjo が供給する機器および他のアプライアンスには、Arjo 指定の部品だけを使用する必要があることを勧告し警告いたします。承認を受けずに行った Arjo 装置の改造は、安全性を損なう恐れがあります。Arjo は、承認を受けずに行った機器の改造及び修理の結果生じた事故、インシデントまたは製品不具合などに対する一切の責任を負いません。

MAXI MOVE は、着脱可能なスプレッダーバーを装備した移動式の床走行リフトです。

Maxi Move は、以下のいずれかに該当する患者様 / 利用者様がいる病院、長期ケア、介護施設、および個人宅を含む在宅ケア環境で、介助者を支援することを目的とした高品質な製品シリーズの一つです。

- 車椅子に座った利用者様
- 自力で身の回りのことができない利用者様
- 介助者に補助されることなしに立位を取ることができず、自分の体重を全く支えられない利用者様
- 多くのケースにおいて、介助者を必要とする利用者様

あるいは、以下の利用者様：

- 消極的である
- ほとんどまたは完全に寝たきりの状態
- 身体を動かせなかったり、関節が収縮したりしていることが多い
- 全面的に介助者を必要とする

MAXI MOVE は、訓練を受けた介助者が、本取扱説明書に記述されている注意事項に従って取り扱わなくてはなりません。

MAXI MOVE は Arjo スリングと併用してください。Arjo が提供する MAXI MOVE 用のスリングやストレッチャーのみを使用して下さい。

オプションの超低床式キャスターを装着している MAXI MOVE は、カーペット上で使用されることを意図していません。

一般情報

条件

- 本製品は、当社が推奨する既刊の 「取扱説明書」および 「予防保全計画」に従って管理、点検整備してください。
- 本製品は、既刊の 「予防保全計画」の規定に沿ってのみ最低要件を満たすものとします。
- 本ユニットのサービスおよび製品ケアは、Arjo の要件に従い、お客様が本ユニットを最初に使用する時点で開始する必要があります。
- 本製品は、その意図した目的だけに使用され、かつ規定の範囲内で操作してください。Arjo の指定する交換部品のみを使用してください。

耐用年数

- Arjo リフトおよびそのアクセサリーの想定製品寿命は、以下の条件遵守を前提として、製造日から 10 年です。
- 布製スリングと布製ストレッチャーの耐用期間は購入月から約 2 年です。
- この耐用期間は、スリングとストレッチャーが 「Arjo スリングに関する情報」文書、「取扱説明書」および 「予防保全計画」に従って洗浄、保守および点検されている場合に限り適用されます。
- バッテリー、ヒューズ、ランプ、ジェルクッション、フィルター、シールキット、座部インサート、マットレス、安全ベルト、クッション付き用カバー、ストラップおよびコードなどの他の消耗品の耐用期間は、それぞれの製品やアクセサリーの管理と使用量により異なります。

これら消耗品は、既刊の取扱説明書および 「保守･点検計画」に従って保守される必要があります。

利用者様の移乗に必要な介助者の人数に関する方針

Arjo の受動タイプおよび能動タイプのリフトは、1 人の介助者でも安全に利用者様の移乗を行えるように設計されています。抵抗される利用者様や、肥満こう縮などを伴う利用者様の場合、2 人の介助者による移乗が必要になることがあります。作業手順、利用者数、環境、能力、および職員の熟練度・技能水準に基づいて、 1 人または 2 人の介助者による移乗のいずれが適切かを判断することは、各施設または医療専門家の責任となります。

安全の手順

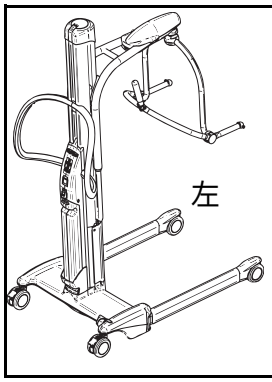
記号

記号	記号の説明
	この記号には、（製造日を示す）日付とメーカーの住所が付いています。
CE	この記号は、製品が欧州医療機器規則に準拠していることを示します。
CE 2797	欧州共同体統一法への適合を示す CE マーキング。 図は、監督認証機関のトレードマークです。
Cat: III CE Myy XXXX	計量マーク （指令 2014/31/EU への準拠を示す） (NAWI) - 2016 年 4 月 20 日以降に製造された体重計用。 （クラス III 安全性のみ） yy = 年、 XXXX = 認証機関番号
MD	本製品が EU 医療機器規制 2017/745 に準拠した機器であることを示します。
UDI	機器固有識別子 (UDI)
TÜV SÜD C US	この記号は、 TÜV SÜD を通じて NRTL 認証取得したことを証明しています。
REF	この記号にはメーカーのカタログ番号が付いています。
SN	この記号にはメーカーの製造番号が付いています。
	電気・電子機器廃棄物 (WEEE) - 一般的な家庭ゴミまたは商業ゴミと一緒に本製品を廃棄しないでください。
	これらの記号については*取扱説明書*を参照してください。
	この記号は BF 型装着部を示します。
	この記号は、挟まれ事故の危険性があることを示します。
	この記号は体重計を表します。
III	この記号は、本体重計が非自動はかり、精度等級 3 であることを示します。
SWL	安全耐荷重は、安全なリフト操作のための最大負荷重量を意味しています。
+ SWL = 299kg / 659lb (72kg /159lb) (227kg /500lb)	安全耐荷重を含む機器の最大総質量。
バッテリー充電器関連	
壁掛け式バッテリー充電器 - 取扱説明書 001-24257-** を参照してください。	

図 1

安全の手順

MAXI MOVE を使用する前に、図 3 および他の挿絵に示した様々な部品と制御装置をよく覚えてください。次いで、MAXI MOVE を使用する前にこの取扱説明書全体を熟読してください。本取扱説明書の内容は、機器の適切な操作とメンテナンスに重要であり、製品を保護する上で役に立ち、ご満足いただける形で製品をご利用いただけます。本書には安全確保に関する重要な情報が含まれていますので、怪我を予防するため、よく読んで理解しなくてはなりません。本取扱説明書の内容について、ご質問やご不明な点がありましたら、最寄の Arjo 代理店にご連絡ください。



本説明書での 「左」または 「右」は、介助者が MAXI MOVE の後に立ち、その進行方向を向いて本製品を押す介助者の視点に基づくものです。

図 2

本製品は、トラブルのない使用をご提供するために設計製造されています。しかし、この製品には通常の使用で摩耗する部品やコンポーネントが含まれています。

注意：これらの部品のいくつかは、本リフトの安全な操作を行う上でな重要な役割を果たしますので定期的に検査および点検整備を必要とし、必要に応じて交換してください。

「MAXI MOVE の管理」のセクションも参照してください。

注意：MAXI MOVE 用に特別にデザインされた Arjo のスリングおよびストレッチャーのみをご使用ください。

警告：MAXI MOVE を使用する前に、とりわけ利用者様の移乗においては体に相当な圧力がかかることを考慮して、資格のある医療専門家が、利用者様の移乗適合性に関する臨床的評価を行う必要があります。移乗適合性の低い利用者様を移乗すると、健康状態を悪化させる恐れがあります。

警告：痙攣のある利用者様を持ち上げることは可能ですが、落下と怪我を防止するため、細心の注意を払って脚部を支える必要があります。

警告：怪我を避けるため、 MAXI MOVE に取付具 / アクセサリーに記載されている最小の安全耐荷重を超える荷重をかけないでください。床走行リフト、スプレッダーバーおよび身体の支持具（すなわちスリング）の各最大安全耐荷重が異なる場合には、その中で最低の許容荷重を本製品の最大安全耐荷重とします。

ストレッチャーフレーム、スプレッダーバーなどの代替/ オプションのコンポーネントを手で持ち上げる際は、怪我を避けるために注意を払ってください。

リフト全体を手で持ち上げるようなことはしないでください。

注意：MAXI MOVE とその付属品は高い基準で製造されていますが、高湿度の場所や湿潤な場所に放置しないでください。

いかなる状況（シャワー時など）においても、MAXI MOVE やアクセサリー（スリングまたは Arjo が濡れた環境で使用できると承認した設備機器は除く）に決して水がかからないよう十分に注意してください。

警告：利用者様を持ち上げる前に、 MAXI MOVE の様々な操作方法と機能に慣れ、また理解し、点検手順に関連するすべての措置を取るようにお勧めします。

MAXI MOVE には様々な取付具がオプションとして用意されていますが、それらのすべてが本説明書に記載されているとは限りません。MAXI MOVE が、ストレッチャーなどの代替 / オプションのアクセサリーを装備している場合は、本リフトを操作する前に、本説明書だけでなく関連する他の操作説明書も必ず参照してください。

本製品は、介助者が全操作を行うように意図されています。本製品に関連するいかなる機能も利用者様ご自身に操作させないでください。特定の利用者様には、介助者が 2 人必要なことがあります。

在宅環境に関する注意事項

警告：MAXI MOVE は子供が操作することを想定していません。重篤な怪我を負う可能性があります。

注記：MAXI MOVE が動物に暴露された場合は、厳格な洗浄・消毒処置を行う必要があります。本製品の内側に入り込んだペットの毛は本製品の性能を低下させる可能性があります。

警告：本製品には、子供が飲み込んだり、吸引したりすると、深刻な危険がある小さな部品が含まれています。

製品説明 / 機能

この取扱説明書で参照する部品

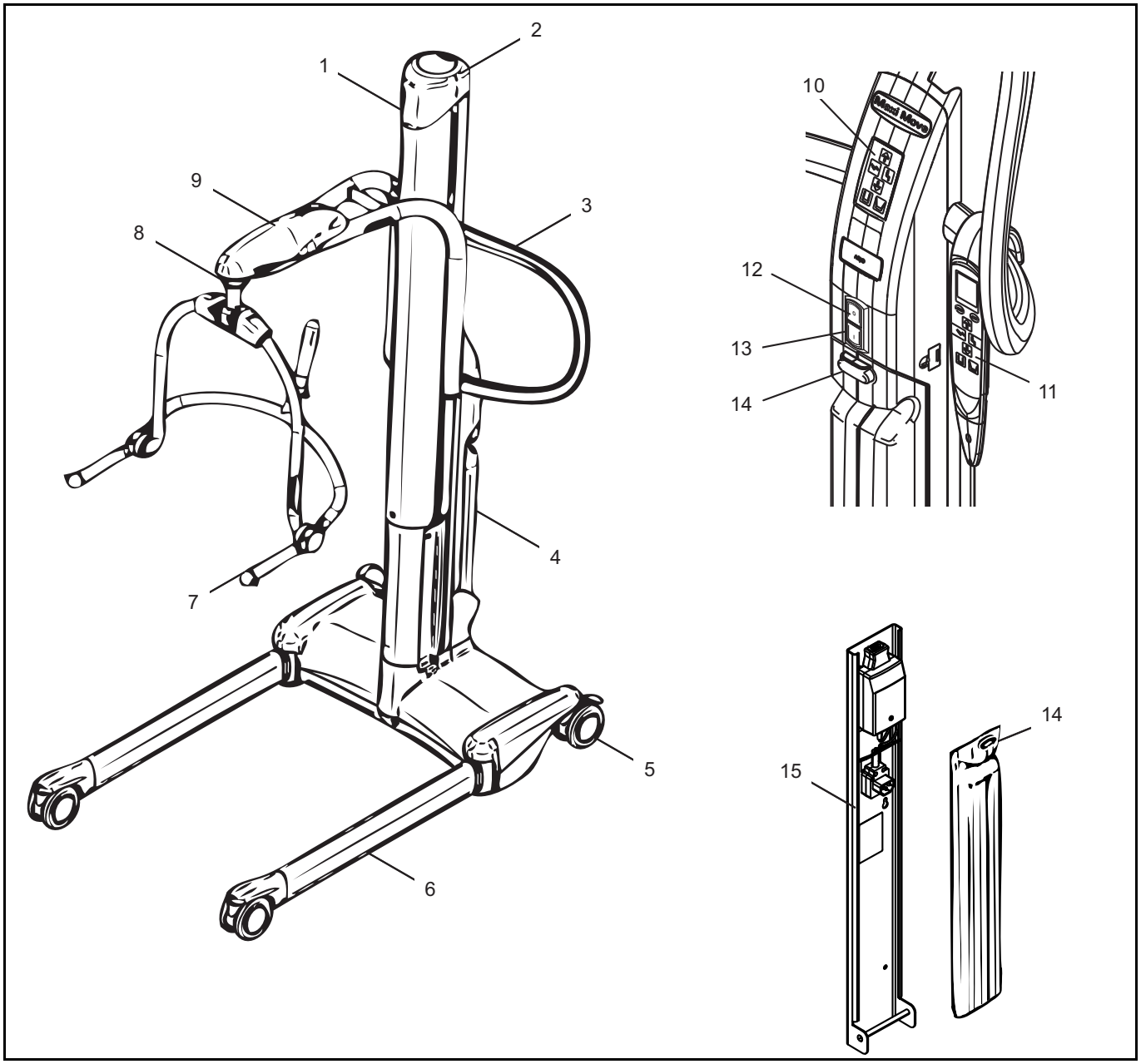


図 3

1) マスト 2) マスト上部カバー 3) 操作ハンドル 4) バッテリー 5) ブレーキ付きキャスター 6) 調節可能なシャーシレッグ 7) M サイズ DPS スプレッダーバー（含まれている場合） * 8) 「ロック・アンド・ロード」スプレッダーバーのキャリアシステム 9) ジブ 10) コントロールパネル 11) コントロールハンドセット	12) 緊急停止ボタン 13) 電源ボタン 14) バッテリー解除ボタン 15) バッテリー充電器 16) 2 点ループスプレッダーバー（含まれている場合）* 17) ループ M サイズ コンビ （含まれている場合） * 18) 4 点ループスプレッダーバー（含まれている場合） * 19) DPS スプレッダーバー S サイズ（含まれている場合） * 20) 電動 M サイズ DPS スプレッダーバー（含まれている場合） * 21) 電動 L サイズ DPS スプレッダーバー（含まれている場合） * 22) ストレッチャーフレーム （含まれている場合） *

* 詳細は 10、 11 ページを参照してください。

スプレッダーバー

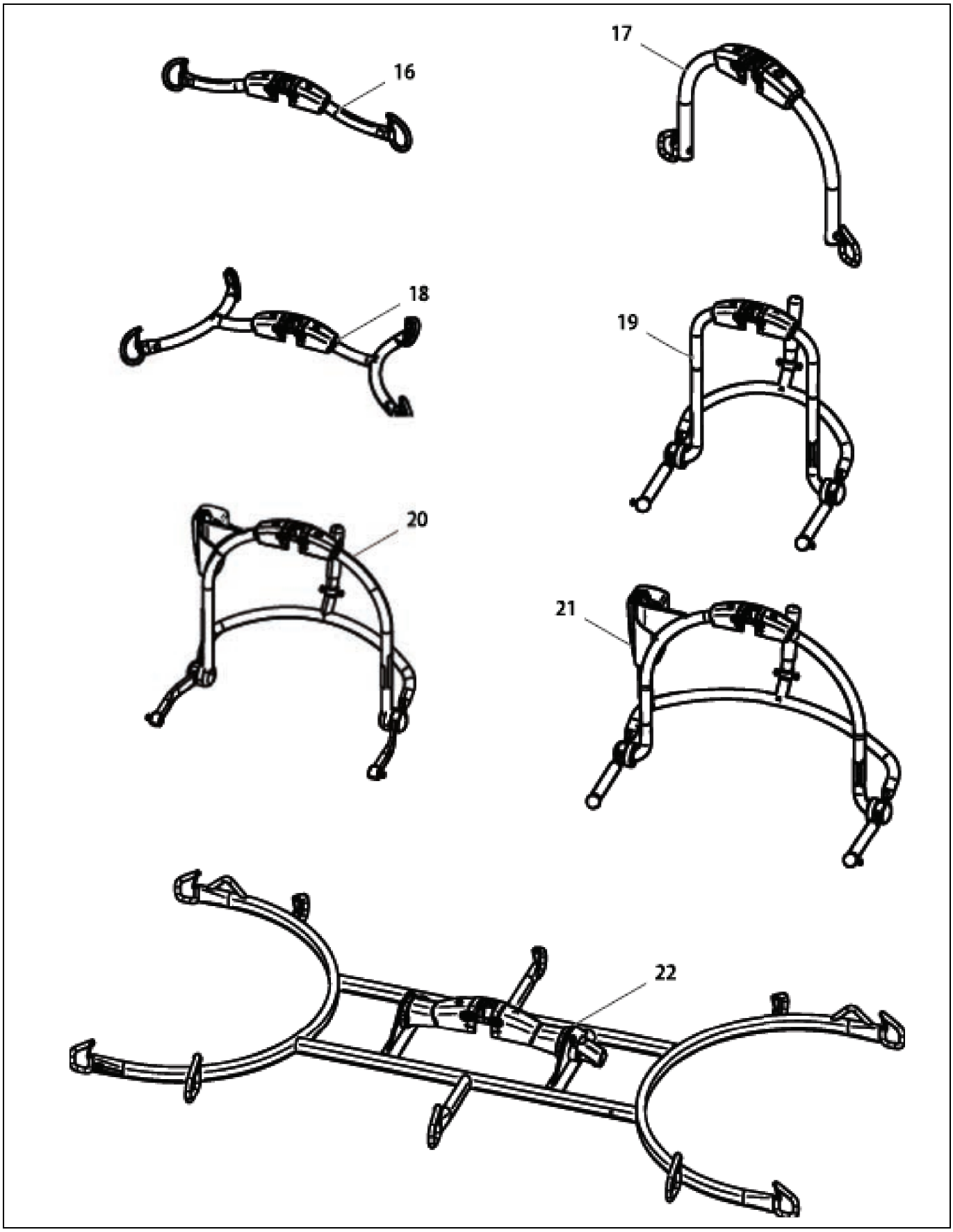


図 4

	名称	使用目的
7	M サイズ DPS スプレッダーバー	Arjo クリップスリングを使用して利用者様を座位から横臥位に体位変換する際に使用する 4 点式キャリーバー。 Arjo T-Bar 取り付けシステムでの使用を前提として設計されています。
16	2 点ループスプレッダーバー	Arjo ループスリングを使用したさまざまな位置からの移送に使用される 2 点式キャリーバー。 Arjo T-Bar 取り付けシステムに取り付けることを前提として設計されています。
17	ループ M サイズ コンビ (700-19303)	
18	4 点ループスプレッダーバー (700-19331)	Arjo ループスリングを使用したさまざまな位置からの移送に使用される 4 点式キャリーバー。 Arjo T-Bar 取り付けシステムに取り付けることを前提として設計されています。
19	DPS スプレッダーバー S サイズ	Arjo クリップスリングを使用して利用者様を座位から横臥位に体位変換する際に使用する 4 点式キャリーバー。 Arjo T-Bar 取り付けシステムでの使用を前提として設計されています。
20	中型電動式 DPS スプレッダーバー (700.19311)	
21	大型電動式 DPS スプレッダーバー (700.19316)	
22	ストレッチャーフレーム	Maxi Move 用の折りたたみ式ストレッチャーフレームは、ソフトストレッチャー、ストラップストレッチャー、またはスクープストレッチャーと組み合わせて仰臥位での移乗に使用することを目的としています。

図 5

スリング

MAXI MOVEスリングの標準タイプは、標準ジブで 227 kg (500 lb)、延長ジブで 130 kg (287 lb) の重量を支持することができます。小児用スプレッダーバーは 125 kg (275 lb) までの重量を支持することができます。すべてのスリングは、下記の通りの異なる色の縁ストラップまたは取付具ストラップ色によってサイズ別に色分けされています。

小児用：

- 灰色 - XXS
- 茶色 - XS
- 赤色 - S

標準タイプ：

- 黄色 - M
- 緑色 - L
- 紫色 - LL
- 青 - XL
- テラコッタ - XXL

常に使用スリング上のラベルを参照して、スリングの安全耐荷重 (SWL) を必ず確認してください。

ラベルはスプレッダーバー上に貼付されていて、すぐに参照できるサイズ・カラーコードが付いています （「ラベル」セクションを参照）。

別売りの目的別の各種スリングがご利用いただけます。これらのスリングまたは特殊サイズのスリングをお求めの際は、最寄りの Arjo 代理店にお問い合せください。

スリングの互換性、使用法および取り付け方に関するより詳細な情報は、「スリング操作および製品取扱説明書」を参照してください。

警告：落下の危険性と怪我を防止するため MAXI MOVE 用に設計された Arjo が供給するスリングとストレッチャーのみを使用してください。スリングの図 （図 6 を参照）は、ご入手いただける様々な Arjo スリングや布製ストレッチャーを選択する上で有用です。

Arjo Flites （使い捨てスリング）がこの MAXI MOVE と使用される場合、使用前に、本説明書だけでなく、別個の Arjo Flites 操作説明書 （各スリングの取扱説明書を参照）も必ず参照してください。

警告：ヘッドレスト付き Arjo スリングは、その頭部セクションにポケットが 2 つ付いています。怪我を避けるため、使用中はこれらポケットに補強用プラスチックインサートをはめ込んでください。スリングを使用する前に必ずこれらの補強用インサートがスリングポケットの内部に配置するようにしてください。

警告：Arjo は、スリングの使用に関連する巻き込み事故の危険性があることを警告します。そのような事故を防止するため、必要な予防措置を講じる必要があります。

MAXI MOVE と共に使用できる Arjo 標準スリング

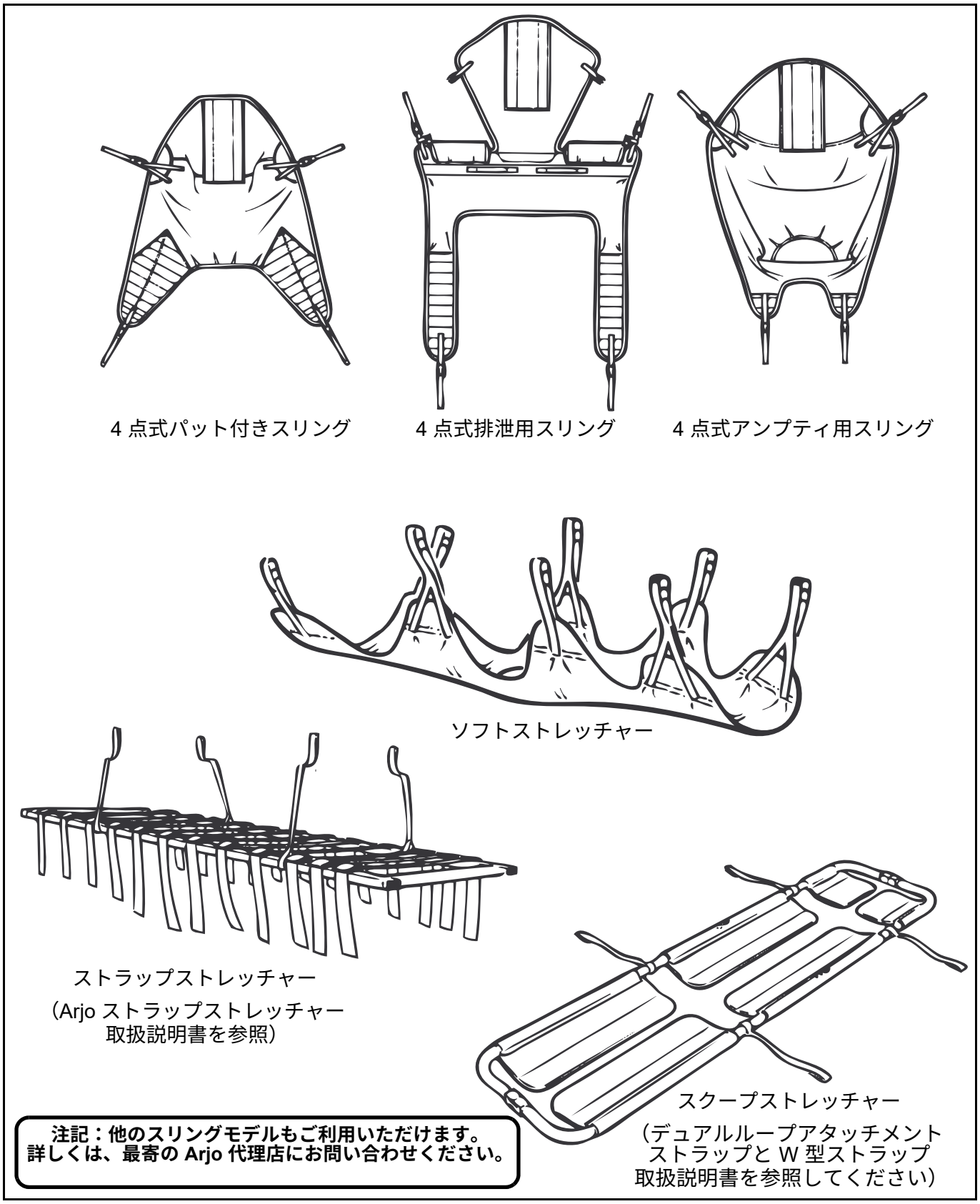


図 6

操作方法と機能

コントロール手元スイッチ

（図 7を参照）ジブの昇降、シャーシ脚部の開閉、または電動式 DPS スプレッダーバーの操作を行うには、コントロール手元スイッチ上の適切なボタンを押します。各ボタンには、すぐに参照できる矢印付きアイコンが印刷されています。

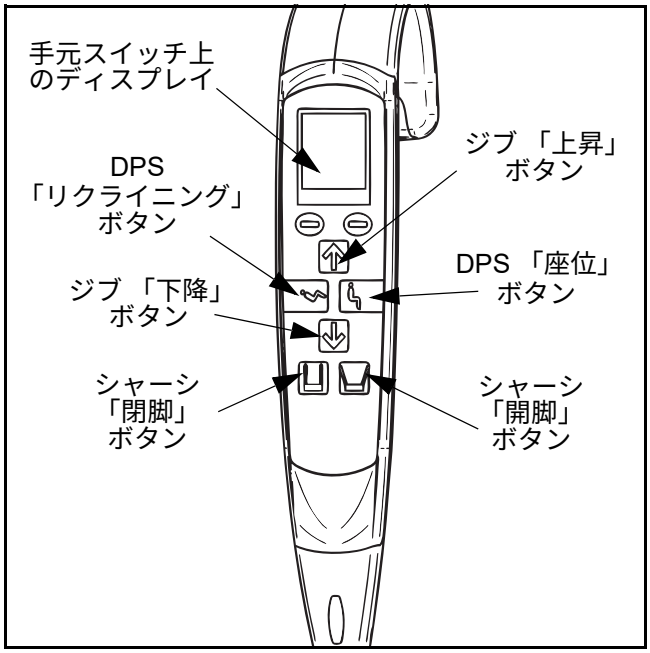


図 7

任意の機能中にボタンから手を離すと、電動動作はただちに止まります。手元スイッチを使用していないときは、後ですぐに使えるように、マスト後部の操作ハンドルに掛けておくことができます。

コントロールパネル

（図 8 を参照） MAXI MOVE で利用可能な追加機構はマストに取り付けられたコントロールパネルであり、このコントロールパネルは手元スイッチと同様に操作することができ、電動操作を本リフトのマストから制御することも、手元スイッチを使用してリモート制御することも可能にします。手元スイッチ同様、クイックリファレンス用の矢印付きアイコンが各ボタン上にプリントされています。

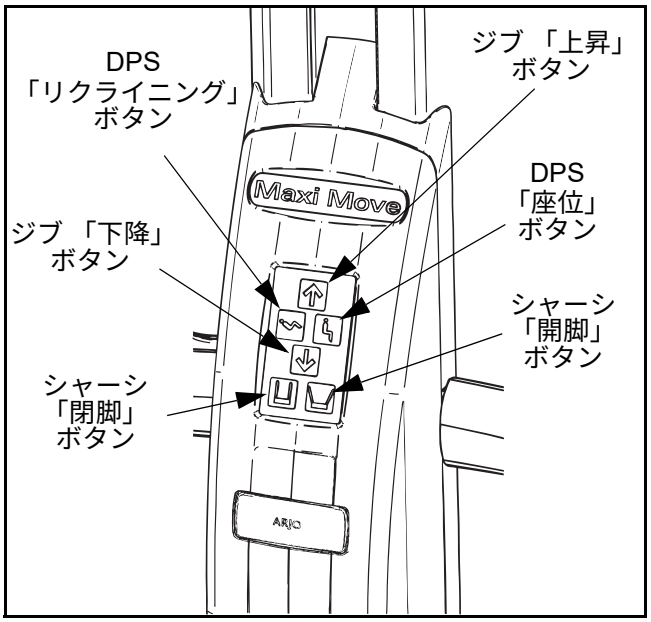


図 8

緊急停止ボタン （赤）

（図 9 を参照）緊急時にすべての電動動作をただちに停止しなくてはならない場合（手元スイッチのボタンまたはコントロールパネルのボタンから手を離す方法以外に）、このコントロールパネル上にある緊急停止ボタンを押します。

この緊急停止ボタンが使用された後に、本製品を再度操作可能にするためには緑の電源ボタンを押さなくてはなりません。これを行うには、そのボタンを押します。

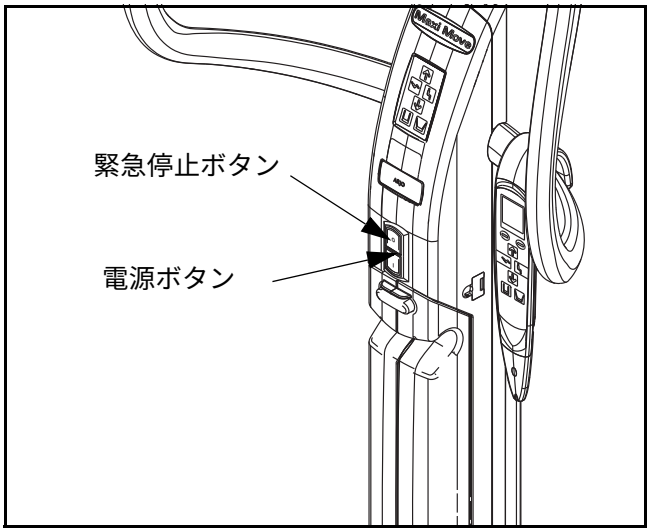


図 9

電源ボタン （緑）

（図 9を参照）その緊急停止ボタンに隣接するこのボタンは、本製品の電源を入れるために使用されます。

システム故障時の巻き下げ機構

バッテリー切れまたは他の電気的故障など電力を完全に喪失した場合にも、安全機能としてジブを下降させることが可能です。最初に、マスト後部にある赤色の緊急下降レバーを上に上げます（図 10 を参照）。

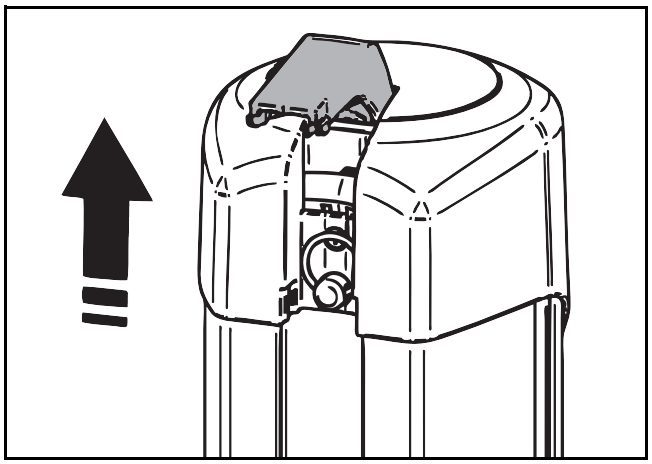


図 10

次に、赤色の緊急下降レバーの真下にあるロックピンをその位置から取り除きます （図 11 を参照）。

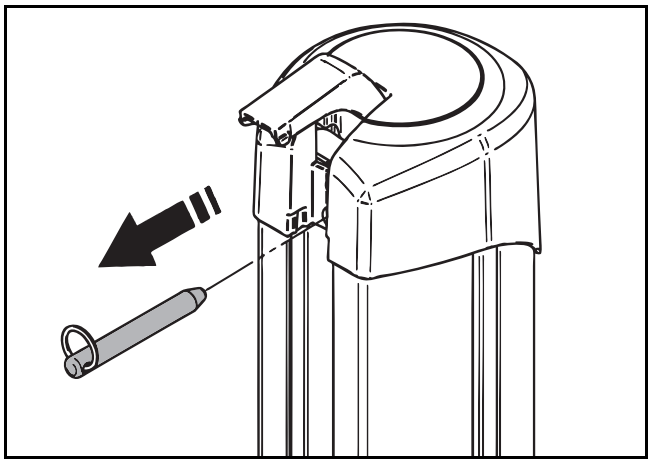


図 11

最後に、レバーをクランクとして使用し、時計回りに回します （図 12 を参照）。そのシャフト軸を時計回りに 1 回転することで、マストジブを 10 mm 下降させることができます。

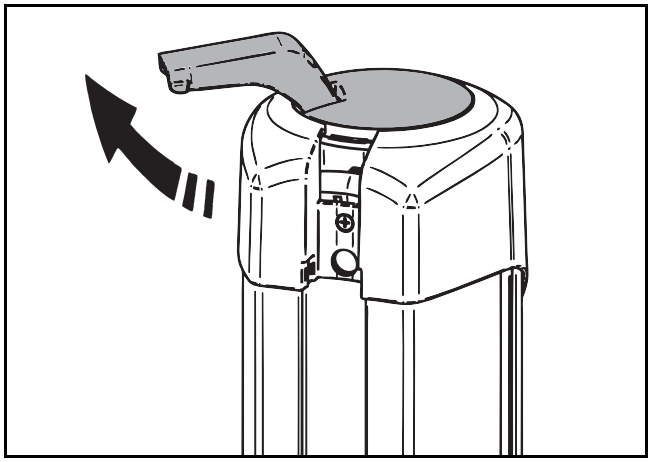


図 12

警告：使用者の落下の危険と怪我を防ぐため、マストが高い位置にあり、巻き下げ機能を使用する場合は、適切かつ安全な措置を取って上部カバーへアクセスしてください。

巻き下げ機能を使用しなければならない事案があった場合は、ただちに本リフトの使用を停止し、最寄の Arjo サービス部門またはその指定販売代理店にご連絡ください。

自動カットアウト

これは、使用者による制御機能ではなく、本リフトの電子部品に組み込まれている機能です。

本リフトが、不注意に許容荷重よりも大きな荷重の昇降を試みることによって過負荷状態になると、自動的にカットアウト機能が作動して、本リフトが安全耐荷重 (SWL) を超える重量の上昇動作を制御します。これにより本リフトの動作は自動的に停止します。

この状態が起こった場合、手元スイッチ上またはコントロールパネル上のジブ 「UP」ボタンを押して解除します。無理にリフトの上昇をさせないでください。MAXI MOVE が必ずその安全耐荷重内だけで動作するようにしてください。

クラッシュ防止システム

これは、使用者による制御機能ではなく、本リフトの電子部品に組み込まれている機能です。

スプレッダーバーやストレッチャーを利用者様や他の障害物の上に下降させないように細心の注意を払ってください。この状態が起こると、本製品の「圧壊防止」システムは係合して昇降モーターを停止させ、すべての下方向動作は止まります。この状態が生じた場合、ただちにジブ「DOWN」ボタンを解除し、ジブ 「UP」ボタンを押して、ジブを本リフトより高い位置まで上昇させます。次に障害物を取り除きます。

バッテリーインジケーター

MAXI MOVE のバッテリーインジケーターは手元スイッチにある機構です。操作手順については、「バッテリーの充電方法」セクションを参照してください。

スリープモード

MAXI MOVE は節電機構を装備しているので、短時間使用されないと本製品を 「スリープモード」に設定します。本製品は以下の 2 段階でスリープモードに設定されます：

1) 本製品が 2 分間使用されないと （コントロール手元スイッチまたはコントロールパネルのいずれかのボタンが押されない場合）、手元スイッチの表示部がスリープモードに入ります。この表示部は、手元スイッチまたはコントロールパネル上の任意のボタンを押すことによってスリープモードから出ることができます。その後に本製品が完全にいつでも使用できる状態になるには 3 秒の遅れがあります。
2) 本製品は、6 分間使用されないと、ユニット全体がスリープモードに入り、コントロール手元スイッチまたはコントロールパネル上の任

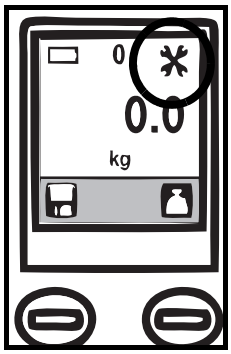
意のボタンが押されるときにだけ再起動します。その後に本製品が完全にいつでも使用できる状態になるには 3 秒の遅れがあります。

使用量カウンター

使用頻度カウンターは手元スイッチ上にある機構であり、本リフトのマストが昇降された累積時間量 （時間単位）を表示します。

計量前には、表示部画面の最上部に「0.0」が表示されます （体重測定値を表す大きな数字のすぐ上）この時間数は、累積で 6 分使用するごとに 0.1 の増分で増加します。このカウンターは、マストの動作中だけに記録を行うことに注意してください。本製品を電源を入れた状態で放置する場合、電動式 DPS の使用中、または脚部の幅調整中は、使用量カウンターの記録に影響しません。

保守記号は、本製品の年間保守要件のリマインダー機能を果たし、使用量カウンターの累積時間が 175 時間に達すると手元スイッチの表示部に表示されます これは 1 年間にリフトが使用される平均時間を表します。この保守記号は本製品の使用量に基づいて 1 年未満でも、1 年を過ぎた時点でも表示される可能性があります。



この保守・点検記号が表示された時点でも本製品を安全に使用することは出来ますが、年 1 回の保守・点検を合理的にできる限り速やかに行ってください。

有資格担当技術者は年次点検を完了した時点で、表示を「0.0」にリセットしなければなりません。これは次の点検期限を監視するために必要です。

幅調節可能なシャーシ脚部

（図 13 を参照）シャーシ脚部を開いて広げるには、コントロール手元スイッチまたはコントロールパネルのいずれかの 「開脚」ボタンを押します。このボタンから手を離すと動作は停止し、シャーシ脚部はその位置に固定されます。利用者様の移乗は必ずシャーシ脚部が閉じた状態で行ってください。

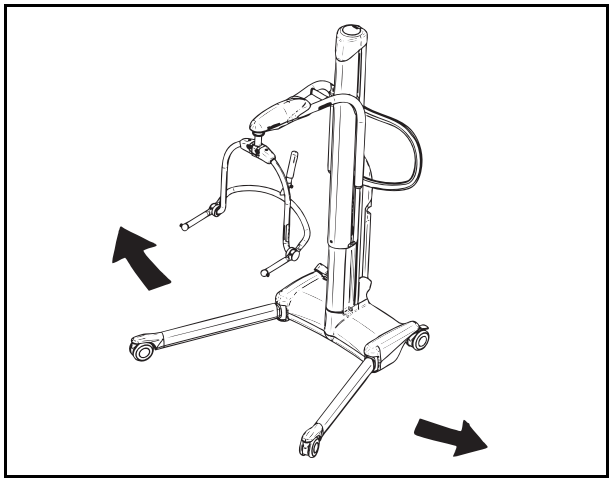


図 13

キャスターブレーキ

（図 14 を参照）シャーシ後部キャスターには、足で操作して MAXI MOVE を適切な位置に固定できるブレーキが付いています。

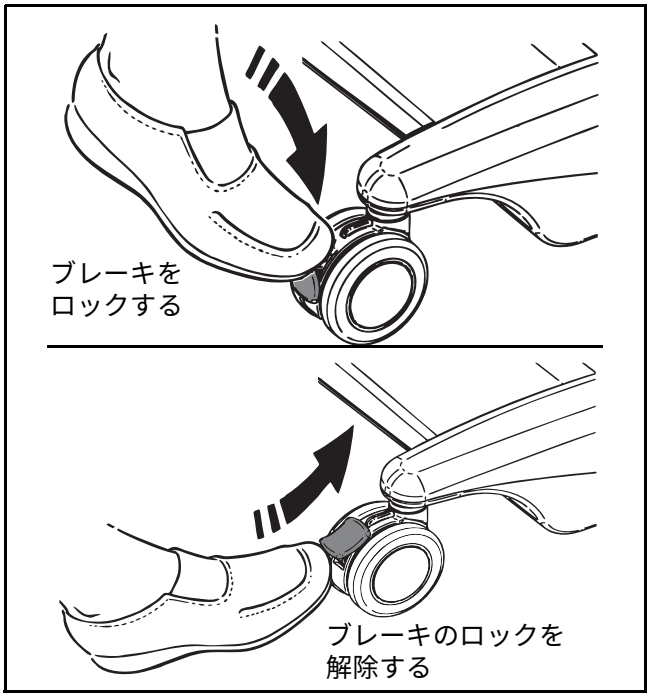


図 14

ジブとスプレッダーバー / ストレッチャーフレーム

（図 3 を参照） MAXI MOVE はループ /DPS スプレッダーバー、ストレッチャーフレームなどの複数のハンガーの使用を可能にするクイックコネクト機能を装備しています。ハンガーの取り付けまたは変更に関する注意事項については「MAXI MOVE の使用方法」セクションを参照してください。

MAXI MOVE の使用

利用者様に使用する前に

使用前に同梱のバッテリーがフル充電されていることを確認します（バッテリーの充電については本説明書の「バッテリー充電」セクションを参照）バッテリーがフル充電されたら充電器から取り外し、MAXI MOVE に戻して取り付けます。先ず、バッテリー底部に渡る凹部をバッテリースロット底部の凸部と合わせ、次いでバッテリーを係止爪が係合するまで回動して所定の位置に固定します。電気接続は自動的に行われます。

緑の電源ボタン（コントロールパネルの下にあります）が押し込まれていることを確認します（図 9 を参照）。

MAXI MOVE を使用して行われる可能性があるすべての移乗に対応できるスリングの種類とサイズがあることを確認します。

介助者は、これから何を行うかを逐次利用者様に知らせ、適切なサイズのスリングを事前に準備しておく必要があります。可能な限り、利用者様への接近は正面から行ってください。

注記：快適性を最大限に確保するため、利用者様がスプレッダーバーやジブにつかまらないようにしてください。

警告：利用者様とその周囲の人々安全性を確保し、怪我を避けるため、マストを上昇させる前に MAXI MOVEMAXI MOVE の上に十分な空間があることを必ず確認してください。ドアフレームの横で利用者様の持ち上げを行う際は細心の注意を払ってください。

警告：患者様とその周囲の人々安全性を確保し、怪我を避けるため、患者様の移乗中は MAXI MOVE MAXI MOVE の上に十分な空間があることを必ず確認してください。戸口を通過する際には細心の注意を払ってください。

必要があれば、シャーシ脚部を開いて椅子や車椅子などに接触しないようにすることができます。

電動開閉 「V」シャーシ

シャーシ脚部が必要な幅になるまでコントロール手元スイッチまたはコントロールパネル上の「開脚」ボタンを押してください。脚部を閉じるには、「閉脚」ボタンを押してください。開閉動作はボタンから手を離すと停止します。

電動シャーシの脚部を開閉する際は、動作中のシャーシ脚部の妨げになる障害物がないように注意を払わなくてはなりません。椅子の周りや戸口で脚部を操作する際は、特別な注意を払ってください。本リフトの移動は、シャーシ脚部が閉じた状態でのみ行ってください。

MAXI MOVE 「ロックアンドロード」システム

スプレッダーバーやストレッチャーフレームなどの取付具の取り付けまたは変更を必要とする場合は、以下の手順に従ってください：

取付具を取り除くには：取付具をしっかり握り、ロッキングクリップの親指パッドを押して T 型バーとの接続を解除します （図 15A を参照）。次いでロッキングクリップを押したままで取付具を上方に持ち上げて T 型バーから離し（図 15B および図 15C を参照）、次の使用に備えて注意深く保管します。

取付具を取り付けるには：必要な取付具を選択し、ロッキングクリップの親指パッドを手前に向けた状態で、取付具の凹部を T 型バー軸の周りにはめ込みます （図 15D を参照）取付具が T 型バーに沿って下方に下がり、ロッキングクリップがしっかりと結合したことを確認します。(図 16 を参照)。

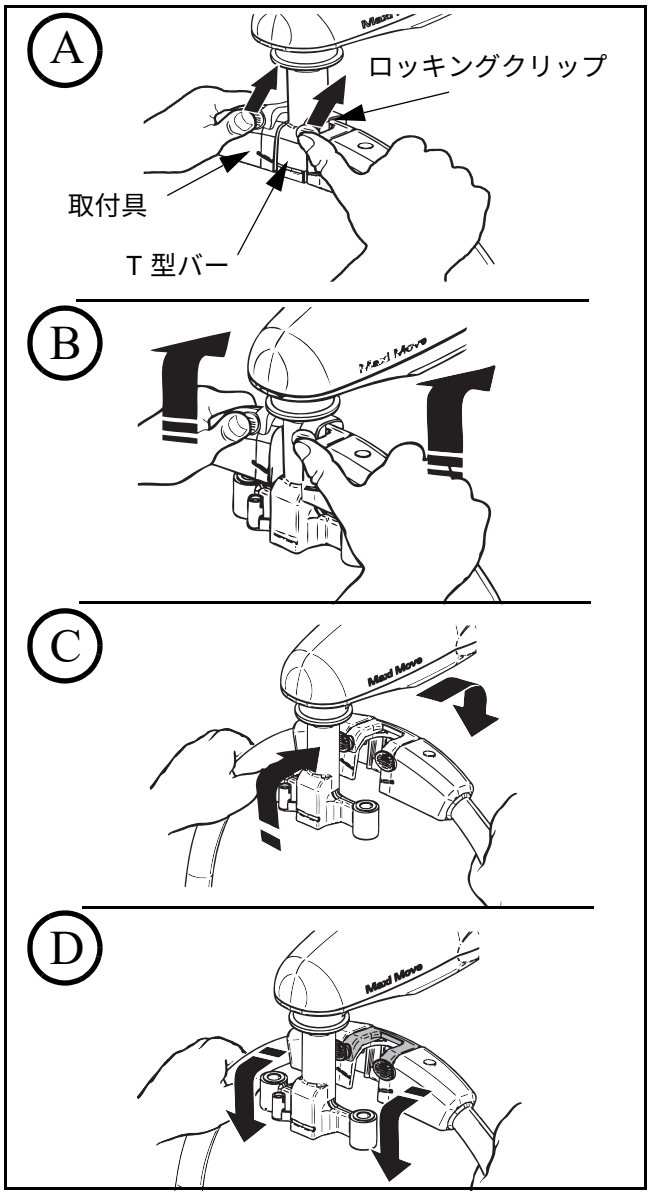


図 15

警告：背部損傷を防止するために、取付具をジブから取り外す際は、その全重量を支える体制を整えてください。

大型取付具の場合、または取付具の重量を安全確認支えることに懸念がある場合は、その手順に複数の人員を配置するか、またはその取付具をベッドまたは椅子で支えるようにしてください。

MAXI MOVE の使用

正しい

取付具のマーキングがつながっています。

正しい

ロッキングクリップが完全にはまっており、取付具がしっかりと固定されています。

警告：以下を行うことによって取付具が所定の位置にロックされていることを必ずチェックしてください：1）適切な位置合わせがあることを示す取付具上のマークを検証し、2）ロッキングクリップが完全に係合しており、したがって取付具が安全確認締め付け固定されていることを検証する。しっかり固定されていないスプレッダーバーは、利用者様が落下する原因となることがあります。

正しくない

取付具のマーキングがずれています。

正しくない

ロッキングクリップがはまっていません。取付具がしっかりと固定されていません。

図 16

警告：取付具が T 型バーから外れるのを避けるため、取付具を硬質表面（たとえばベッド、床、車椅子のアームレストなど）上に下降させないでください。外れた取付具は後で本製品から完全に脱落して、利用者様落下の原因になることがあります。

取付具のテスト

付属品が T 型バーに安全に接続されていることを確認するために、ロッキングクリップの親指パッドを押さずに取付具を両手でしっかりと握り、取付具を上方向に持ち上げます（図 17 参照）。取付具が T 型バーから外れた場合は、MAXI MOVE を使用しないでください。最寄りの Arjo 代理店にお問い合わせください。

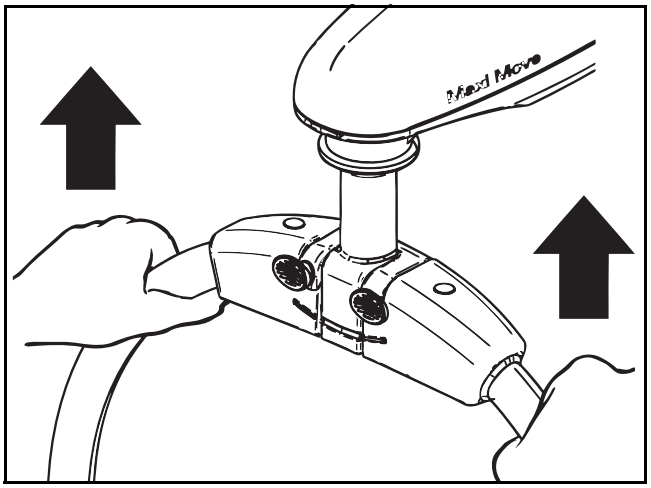


図 17

警告：以下を行うことによって取付具が所定の位置にロックされていることを必ずチェックしてください：1）適切な位置合わせがあることを示す取付具上のマークを検証し、2）ロッキングクリップが完全に係合しており、したがって取付具が安全確認締め付け固定されていることを検証する。

MAXI MOVE の使用

DPS スプレッダーバーの使用

椅子からの持ち上げ方法

スリングは、利用者様の脊髄底部を覆い、そのヘッドレスト部が利用者様の後頭部にくるように装着します。利用者様の大腿部下にある各脚部ストラップを、両大腿部の下から内股から引き出します （図 18 を参照）。

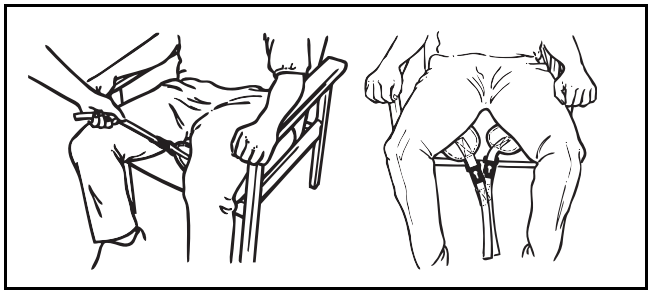


図 18

スプレッダーバー上の位置決めハンドルが利用者様と逆方向を向き、スプレッダーバーの開いた部分が肩の高さか、そのすぐ下にあるように確認をいます。（図 19 を参照）。

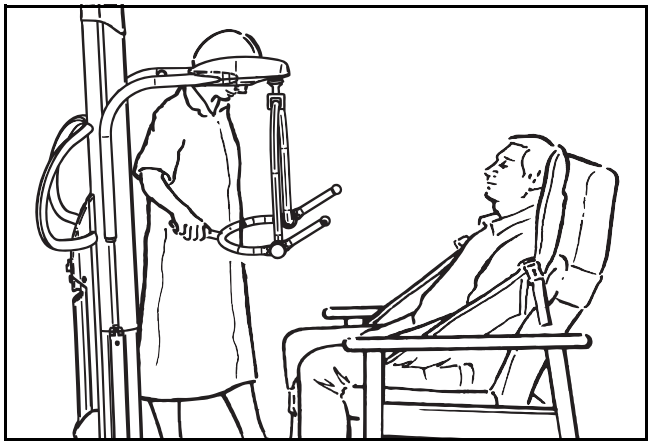


図 19

MAXI MOVE が十分に近接した位置にあり、スリングのショルダークリップをスプレッダーバーに取り付けることができるように確認行います。これを実施するにあたり、利用者様の足をシャーシの上に乗せるか、またはその上に配置する必要があります。

警告：DPS スプレッダーバーにスリングを取り付けて利用者様を持ち上げる際は、怪我を防止するために、利用者様の手と腕を常時スリング内に納めてください。利用者様がスプレッダーバーにつかまらないようにしてください。

MAXI MOVE が所定の位置に配置されたら、ショルダーストラップ取付具クリップをスプレッダーバー上のスリング取付ラグに取り付けます （図 20 を参照）。

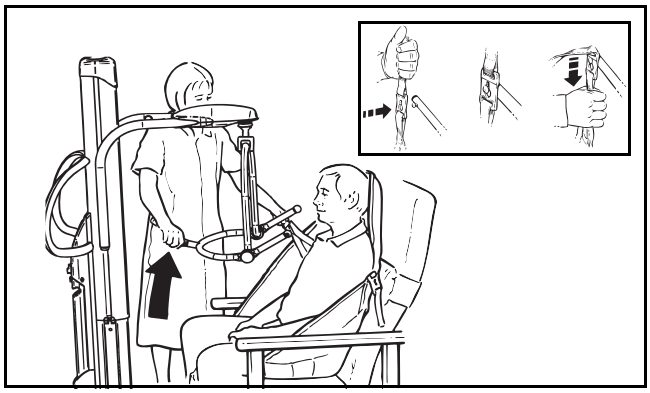


図 20

注意：シャーシ後部キャスターには、必要時に足で操作できるブレーキが付いています （図 13 を参照）。持ち上げの際にリフトの重心に合わせて利用者様の姿勢が調節されるため、この段階ではシャーシのブレーキをかけないでください。

スプレッダーバー上の位置決めハンドルを押し下げ、脚部ストラップ取付クリップを取り付けます （図 21 を参照）。

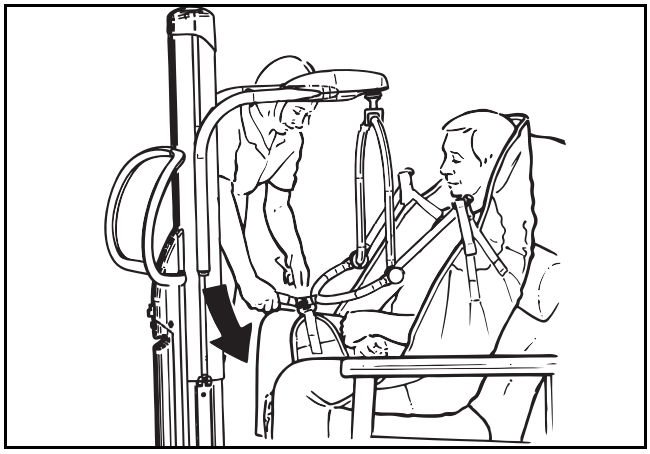


図 21

脚部クリップは真直ぐに取付ることを推奨します (図 22 を参照)。

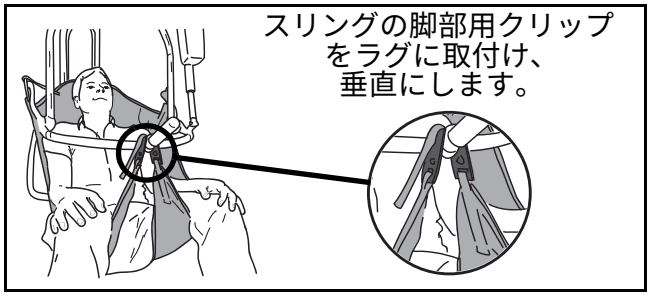


図 22

入居者様が脚部クリップを蹴って外してしまう傾向がある場合には、脚部クリップを交差させて取付ければ、クリップが蹴り外されることを防止できます (図 23 を参照)。

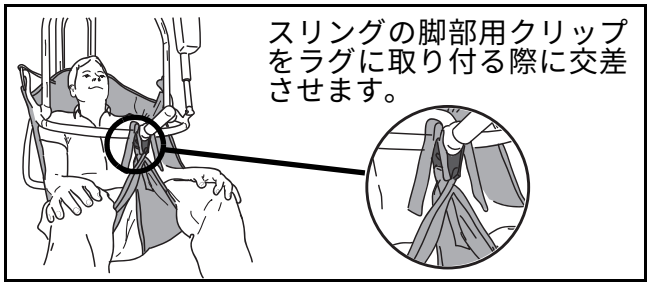


図 23

スプレッターバーが利用者様に当たらないように、手元スイッチを使用してスプレッダーバーを下げます。不注意からこの状態が生じた場合、本製品にはさらなる下降動作を防止するカットアウト装置が組み込まれています。手元スイッチの「ジブ下降」ボタンを押し続けないでください。

持ち上げまたは下降手動作中に手元スイッチボタンから手を離すと、電動動作はただちに停止します。

介助者によっては利用者様を椅子から持ち上げる前に脚部ストラップを取り付ける場合があります。この手法は、大腿部が太い利用者様に適用します。その場合、スプレッダーバー上の位置決めハンドルを押し下げ、脚部ストラップのクリップを取り付けます。次いでスプレッダーバーを利用者様の肩部方向に傾けて、ショルダークリップを接続します。

注意：すべてのスリングクリップが移乗前および移乗中に適切な位置に取付けられており、利用者様の体重が徐々にかかるにつれ、スリングに適切な張力がかかることを必ずチェックしてください。

移乗を行う前に、利用者様が介助者と対面できる高さに座らせてください。これは利用者様に自信と尊厳を与えます。

ブレーキがかけられている場合は、利用者様を移乗する前にブレーキを解除することを忘れないでください。

手元スイッチコントロールを使って利用者様を持ち上げ、移動に適した位置に調節します（図 24 を参照）。特殊スリングはヘッドサポートが付いており、1 人の介助者が手助けなしに利用者を持ち上げられるようにデザインされています。

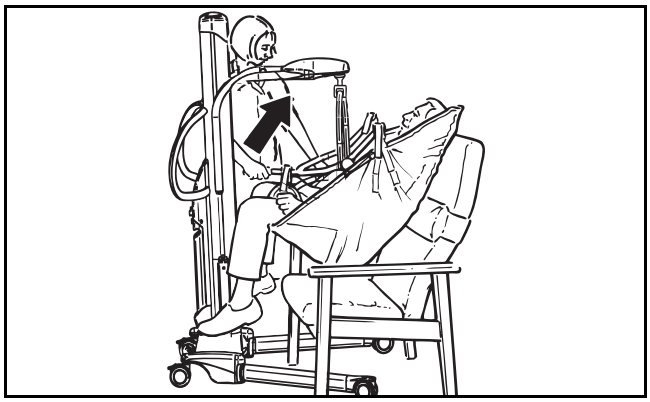


図 24

本リフトを移動して椅子から離します 落ち着きのない利用者様をリラックスさせるために、角度をリクライニング（半座位）位置に調整することができます。これでリフトを移動させることができます （図 25 を参照）。

警告：本リフトを、マスト、ジブ、スプレッダーバーまたは利用者様の体を押したり引いたりして移動させないでください。これは本リフトを不安定にして倒したり、怪我を引き起こす可能性があります。本リフトの移動には必ず操縦ハンドルを使用してください。

警告：スプレッダーバーを下降させる際は、利用者様および介助者の怪我および / または Maxi Move の損傷を避けるため、利用者様および介助者の脚部と足が本リフトのいかなる部分からも十分に離れていて接触することがないことを確認してください。スリングの脚部分接続クリップの取り外しは、利用者様の体重がベッド上に完全に移動した時点で、ショルダークリップを取り外した後に行ってください。

警告：衝撃を防ぐために、移乗中は常に利用者様または機器の周囲に十分な空間があることを確認してください。

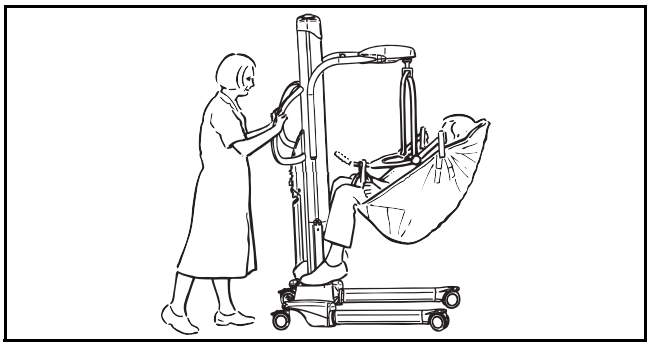


図 25

利用者様の下降時には、座位姿勢を取らせるように位置決めハンドルを下降させます。これはリフトの緊張を回避します。あまりに急速に押し下げないように注意してください。利用者様の頭部を前方に倒す恐れがあります。

ベッドから持ち上げるには

利用者様をベッドから持ち上げる前に、ベッドの下に MAXI MOVE シャーシ脚部を収容するのに十分な空間を確保します。

利用者様をスリングの上に乗せるために、身体を介助者側に横転させ、次いでスリングを半分に折りたたみ、利用者様の背部に配置します （図 26 を参照）。

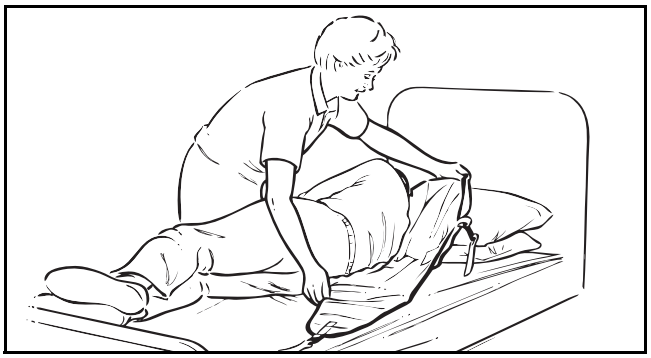


図 26

身体を横転させて元に戻したときに、利用者様がスリングの中心に仰臥位になるようにスリングの位置決めをします （図 27 を参照）。スリングのヘッドレスト部が利用者様の頸部を覆っていることを確認します。

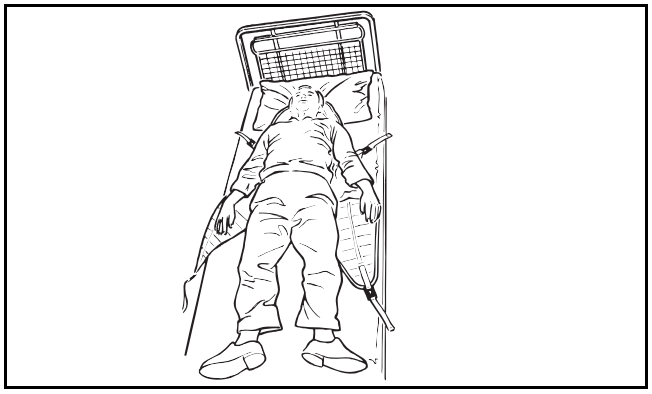


図 27

利用者様を反転させてスリング上に戻す際に、わずかに反対方向に反転させてスリングの折りたたみ部を広げられるようにします。

代替方法として、利用者様を座位姿勢にさせることもできます。次いで 「椅子から持ち上げるには」セクションで詳述したようにスリングを位置決めします。

スプレッダーバーの開いた側を利用者様の頭部に向けてベッドに近づけます （図 28 を参照）。

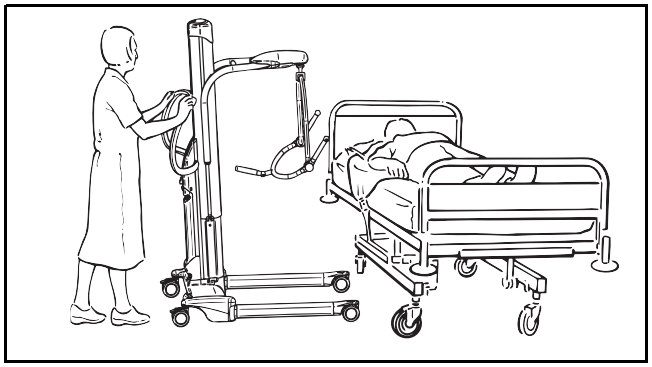


図 28

幅調節可能なシャーシを使用すると、ベッドの脚部やキャスターなどの障害物を避けるように、シャーシ脚部幅を調節することができます。

ここで、スプレッダーバーが利用者様の真上中心にくるように MAXI MOVE を位置づけます。

警告：怪我を避けるため、スプレッダーバーを利用者様の上で下降させる際は、利用者様の体に接触しないように注意を払ってください。

位置決めハンドルを使い、肩の取付ポイントをスリングのショルダーストラップクリップに接続できるようスプレッダーバーを傾けます （図 29 を参照）。

.

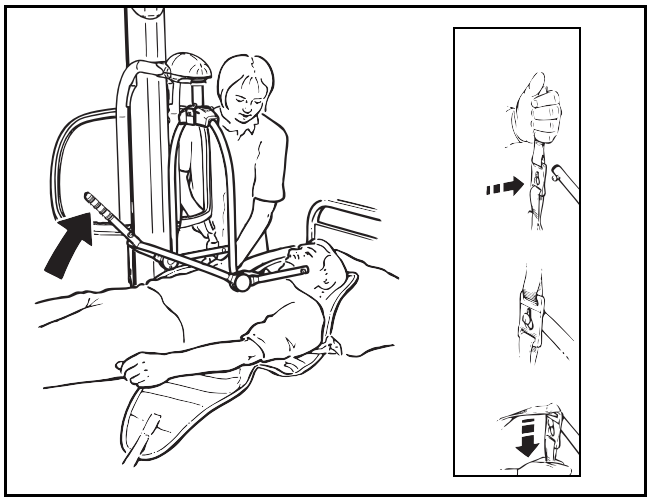


図 29

スリング脚部を接続できるようになるまで位置決めハンドルを押し下げます（図 30 を参照）。片脚ずつ持ち上げて、利用者様の大腿部下の脚部を接続します。上手く接続できない場合は手元スイッチコントロールを使用してスプレッダーバーを少し下降させてください。

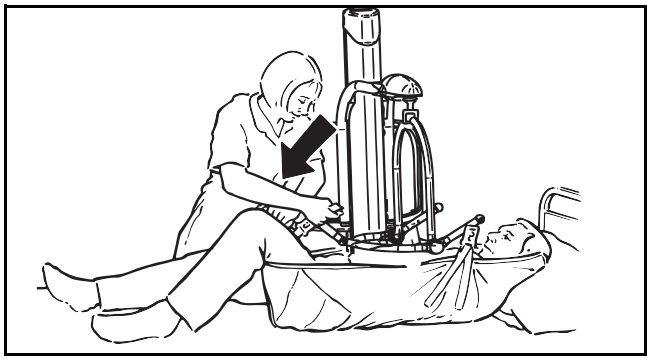


図 30

利用者様をベッドから持ち上げる場合、介助者によっては脚部ストラップから取り付ける場合があります。この手法は、大腿部が太い利用者様に適用します。その場合、臀部と膝を持ち上げて膝を最大に屈曲させた状態にしてから、脚部ストラップクリップを取り付けます。次いでスプレッダーバーを利用者様の肩部方向に傾けて、ショルダークリップを接続します。

注意：すべてのスリングクリップが移乗前および移乗中に適切な位置に取付けられており、利用者様の体重が徐々にかかるにつれ、スリングに適切な張力がかかることを必ずチェックしてください。

手元スイッチコントロールを使用して利用者様を持ち上げ、位置決めハンドルで利用者様を移乗に適した安楽な体位にします （図 31 を参照）。特殊スリングはヘッドサポートが付いており、1 人の介助者が手助けなしに利用者を持ち上げられるようにデザインされています。

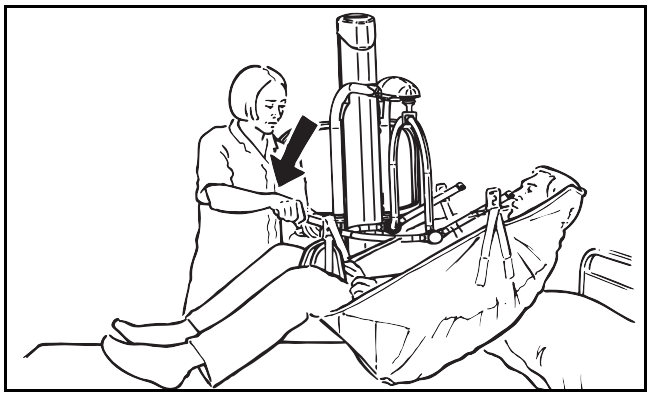


図 31

利用者様をベッドに戻す場合、必要に応じてスプレッダーバーの位置を調節しながら利用者様をベッドの上の所望の位置に移動させます。次に手元スイッチコントロールを使用して利用者様を下降させます。

スプレッダーバーを下降させる際は、怪我を避けるため、利用者様と介助者の脚部と足が本リフトのいかなる部分からも十分に離れていて接触することがないことを確認します。

警告：スリングの脚部分接続クリップの取り外しは、落下の危険性を避けるため、利用者様の体重がベッドによって完全に支持された時点で、ショルダー接続クリップの取り外しの後でのみ行ってください。

利用者様の体の下からスリングを取り除く前に、MAXI MOVE を引いて離します。利用者様を椅子に移乗させる場合は、「椅子から持ち上げるには」セクションを参照してください。

床からの持ち上げ方法

利用者様を横転させるか座位を取らせた状態で、スリングを装着します。先ずシャーシ脚部を開き、次いで利用者様に接近し、利用者様の脚部を持ち上げてシャーシの上に乗せます （図 32 を参照）。

注意：ストラップが MAXI MOVE 脚部の下を通過していないことを必ず確認してください。

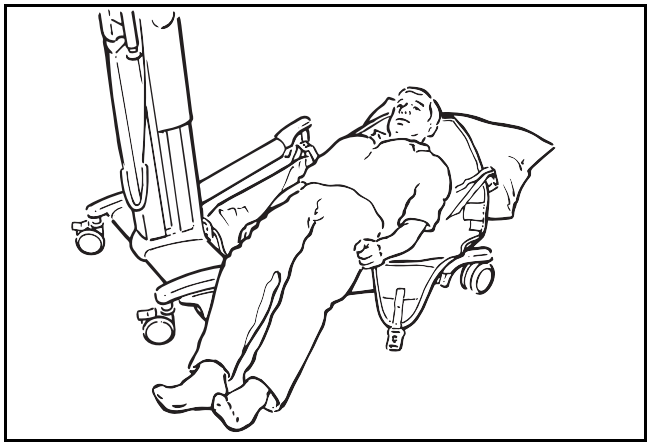


図 32

注意：図 32 のように利用者様が脚部の上に位置づけられている間は、絶対にシャーシ脚部を操作しないでください。

スリングをスプレッダーバーに接続する際に、利用者様の頭部と肩部を枕を当てて少し高くすることでより快適にすることができます。

図 33 のように、スプレッダーバーの開いた部分を利用者様の肩部に向けた状態でショルダーストラップクリップを取り付け、はめ込みます。

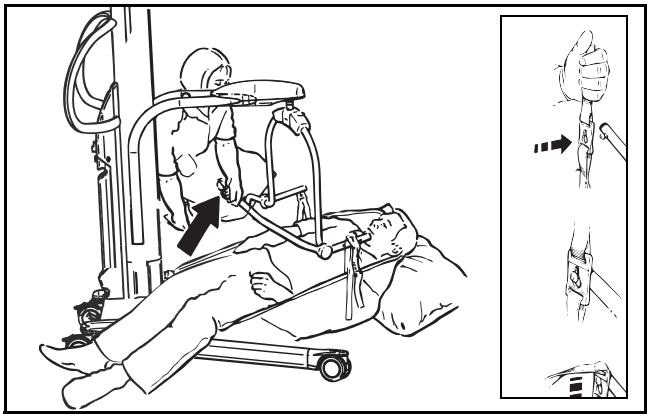


図 33

接続後に、図 34 のように利用者様の臀部と膝を持ち上げて膝を最大に屈曲させ、脚部ストラップクリップを接続できるように位置決めハンドルを押し下げます。これには、利用者様の頭部と肩部を少し高くする効果があります。

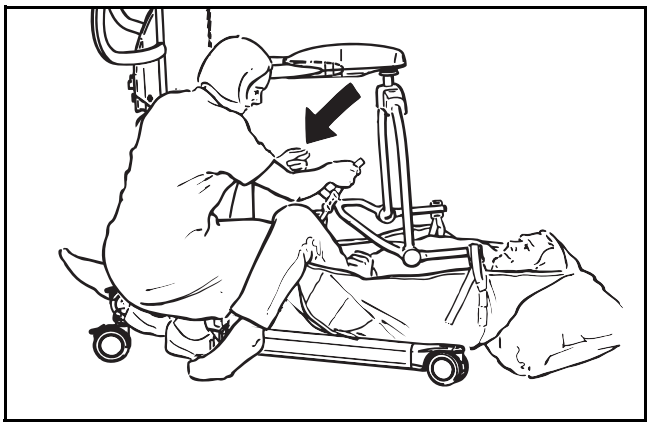


図 34

注意：すべてのスリングクリップが移乗前および移乗中に適切な位置に取付けられており、利用者様の体重が徐々にかかるにつれ、スリングに適切な張力がかかることを必ずチェックしてください。

利用者様を床から持ち上げる際に、介助者によっては最初に脚部ストラップを接続します。この手法は、大腿部が太い非常に大きな利用者様に特に適用します。その場合、臀部と膝を持ち上げて膝を最大に屈曲させた状態にしてから、脚部ストラップクリップを取り付けます。次いでスプレッダーバーを利用者様の肩部方向に傾けて、ショルダークリップを接続します。

すべてのストラップがしっかりとを取り付けられた時点で、利用者様を半リクライニング（半座位）姿勢で床から持ち上げます。利用者様の頭部を支えることで、より快適にすることができ、安心感を与えることもできます。床から持ち上げたら、リフトを続ける前に利用者様の脚がシャーシに当らないよう注意してください （図 35 を参照）。

スリングの脚部分は利用者様の股部領域でかなり高くなる傾向があります。心地よい位置に整えてください。この時点で、利用者様を椅子に位置づけたり、ベッドに配置したりすることができます。伸筋痙攣患者を MAXI MOVEMAXI MOVE で持ち上げることはできますが、持ち上げの初期段階では利用者様の脚部を支えるような注意を払う必要があります。

警告：スプレッダーバーを下降させる際は、怪我を避けるため、利用者様と介助者の脚部と足が本リフトのいかなる部分からも十分に離れていて接触することがないことを確認します。

スリングの脚部分接続クリップの取り外しは、利用者様の体重がベッド上に完全に移動した時点で、ショルダークリップを取り外した後に行ってください。

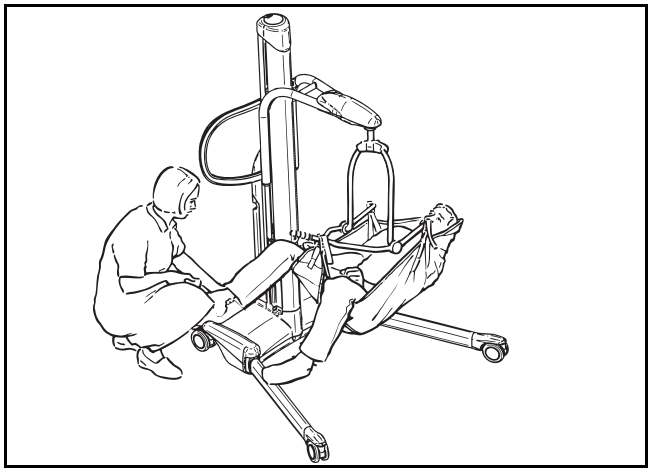


図 35

脚部を切断している利用者様を持ち上げる際は、ダブルアンプティスリング （付属品として Arjo から購入可能）を使用してください。このスリングは、各利用者様の重心に対応できるように特別に設計されています。

利用者様の移乗は、シャーシ脚部が閉じた状態で行ってください。出入り口での操作が容易になります。利用者様が介助者と対面できるようにしてください。

電動 DPS スプレッダーバー

このリフトが電動式 DPS スプレッダーバーを装備している場合 （図 36 を参照）、このタイプのスプレッダーバーの使用法 （装着時のスリング位置決め方法、スプレッダーバーへのスリング接続方法、および利用者様の取り扱い方法を含む）は、本説明書で前述した手動式 DPS スプレッダーバーと同じです。

警告：電動式 DPS スプレッダーバーに装着されたリフトを使用する前に、図 36 に描かれた各種部品を理解してください。また、怪我の原因となり得る過失を避けるため、本操作説明書をよくお読みの上、十分に理解してください。

電動式 DPS スプレッダーバーは、前述の手動式 DPS スプレッダーバーの操作に関する操作説明書と併せて、以下の説明書に従って使用してください。

電動式 DPS スプレッダーバーを装備したリフトの持ち上げ能力は、手動式 DPS スプレッダーバーと同じです。

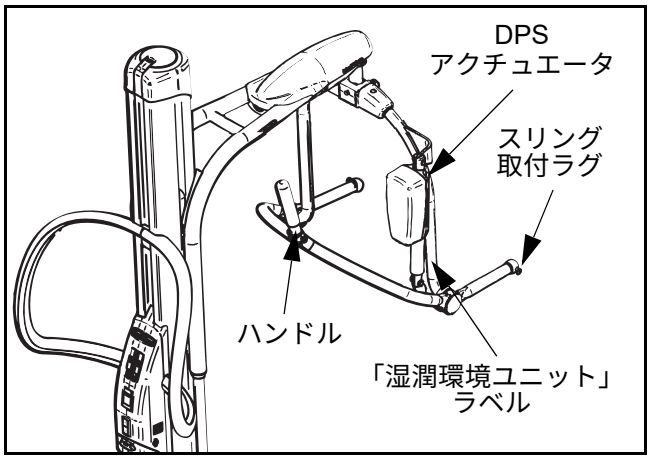


図 36

基本的な違いは、電動式 DPS スプレッダーバーでは利用者様の位置決め操作を行う際に介助者の身体的な負担が最小限ですむという利点がある点です。

電動式 DPS スプレッダーバーの回転は手動で、手動式 DPS スプレッダーバーと同じ操作になります。

Arjo は、電動式 DPS を湿潤環境ユニットとして分類しています。これを示すため、青と白の円形ラベルが貼付されています。このラベルは、ラベル位置より上の部分を利用者様の入浴時またはシャワー浴時のいずれの場合にも水に浸してはならないことを意味します。

電動式位置決め （位置保持）機能を操作する前に、緑の電源ボタンが押された状態になっていることを確認します （図 9 を参照）。

位置決め機能（前述）を行う準備が整ったら、電動式 DPS の手元スイッチにあるコントロールボタン（図 8 を参照）またはコントロールパネル上にあるボタンを操作してスプレッダーバーを所要の位置に移動させます。

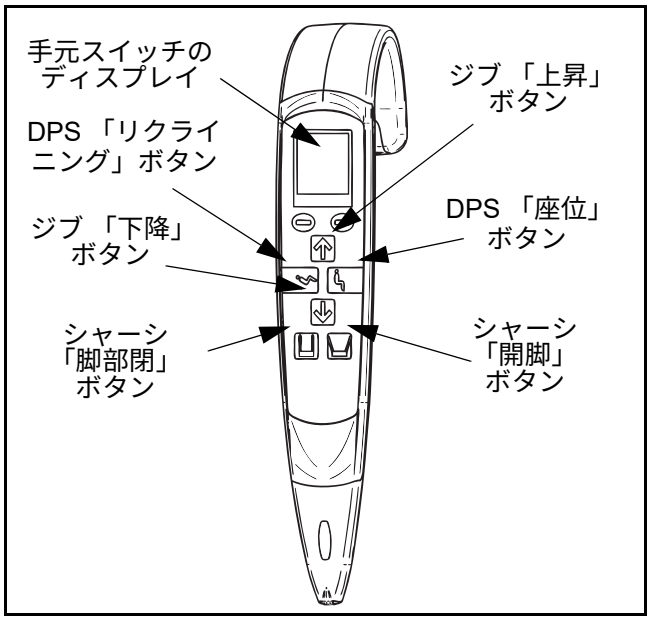


図 37

電動動作を停止するには、コントロールボタンを解除するか、または緊急停止ボタンを押してください。

動作が停止されると直ちに、スプレッダーバーは適切な位置で停止します。

持ち上げ動作を開始する前に、必ずスプレッダーバーがジブにしっかりと接続されていることを確認してください。

注意：電動式 DPS スプレッダーバーの操作前と操作中に、スプレッダーバー、サポートフレームおよびジブがすべての障害物から離れていて接触することがないことを確認してください。

電動式 DPS スプレッダーバーの管理

一般的な手入れと管理については、「MAXI MOVE の管理」のセクションを参照してください。特にプラスチック部品の洗浄、ラベルの情報などを良くお読みください。

注意：DPS アクチュエータには可動部分が含まれています。損傷しないように注意を払ってください。カバーが損傷したら、本リフトを使用しないで、本リフトを再び使用する前にアクチュエータを交換してください。

ループ・スプレッダーバーの使用

MAXI MOVE にループスプレッダーバーが付いている場合は、スリングを取り付ける前にスプレッダーバーを適切な位置に回転して取り付け、最終的なリフトが、図 38 のようになるようにしてください。

ループスリングをループスプレッダーバーに取り付ける際は、必ずスリング取付ループが残りのフックに適切に取り付けられようにしてください（図 39 を参照）。

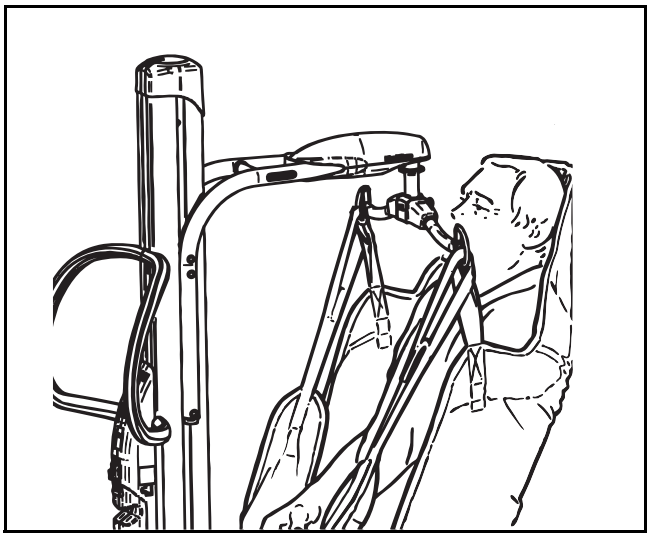


図 38

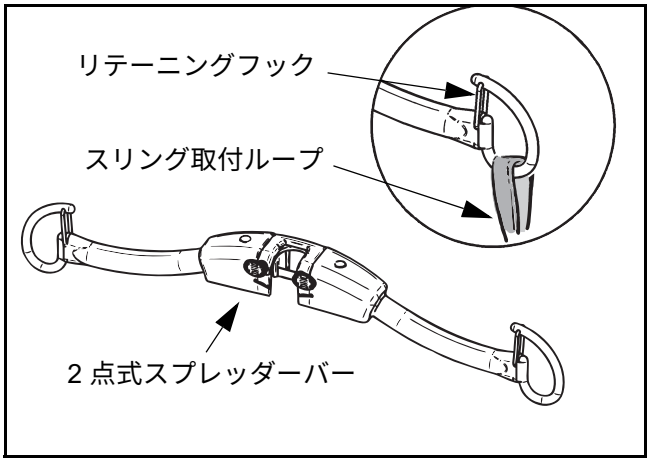


図 39

Arjo ループスリングはループスプレッダーバーと使用してください（図 4 を参考にしてください）。これらは 4 種類のカラーコードサイズ（小型、中型、大型および超大型）でご利用いただけます。さらに特化したスリング製品群に関する詳細は、Arjo または正規販売代理店にお問い合わせください。

ループスリングは、ヘッドレスト付き／無しでもご利用いただけます。また、メッシュスリングがヘッドレスト付き／無しでも 4 種類のすべてのサイズでご利用いただけます。

椅子からの持ち上げ方法

先ず、必要に応じて利用者様をゆっくりと前傾させてください。スリングの縫い目「C」が脊髄底部に達するまでスリングを利用者様の背部に沿って下にスライドさせてください（図 40 を参照）。

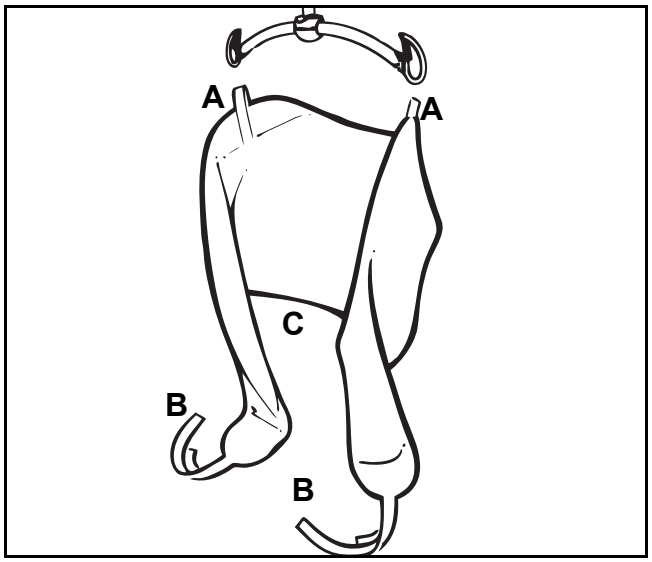


図 40

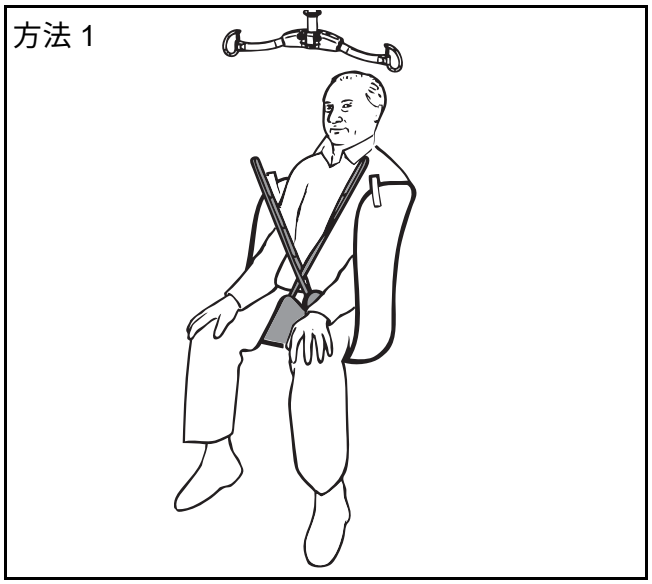


図 41

方法 1 - 取付ループ「B」とスリングの脚部分を大腿部の下に配置します。スリングの脚部分が利用者様の下でねじれていないことを確認します。取付ループをスプレッダーバーの対向側にあるフックに掛けます（上図 41 を参照）。

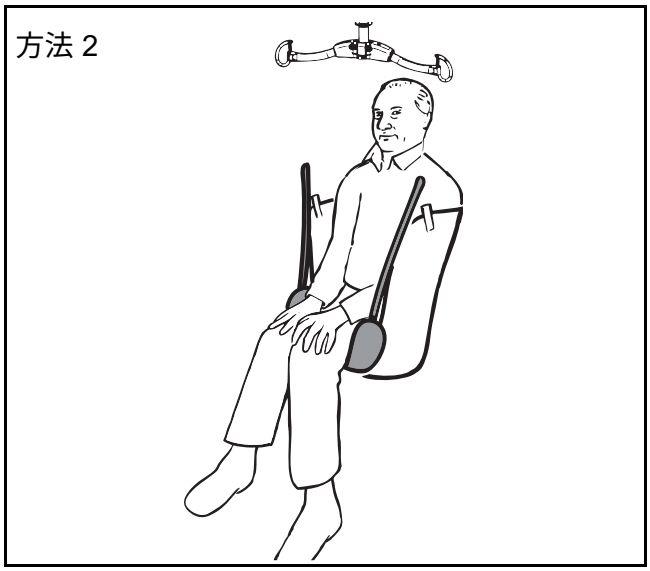


図 42

方法 2 - 方法 1 と同様ですが、「B」点をスプレッダーバーの対向側にあるフックに取り付ける前に、スリングの各脚部分を両方の大腿部下を通過させ、次いで他側から出します（上図 42 を参照）。

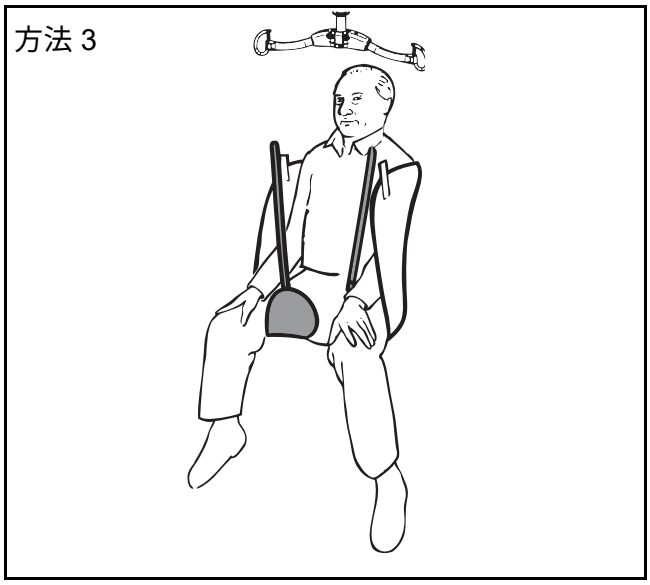


図 43

方法 3 - 方法 1 と同様ですが、スリングの脚部分を各大腿部の下でループにし、ショルダー取付具として同側のフックに取り付けます（左ストラップから左フックへ、および右ストラップから右フックへ）。この方法では脚を外転した状態に保つことができ、トイレの際に便利です（図 43 参照）。

警告：落下の危険性を防止するため、すべてのスリング取付ループが持ち上げのサイクル前とサイクル中に完全に適切な位置にあること、および利用者様の体重が徐々に支持されるにつれて適切な張力がかかることを必ず確認してください。

下降時に怪我を避けるため、利用者様と介助者両者の脚部と足が移動するマストから十分に離れていて接触することがないことを確認してください。

スリングが位置決めされ、しっかりとスプレッダーバーにに取り付けられたら、コントロール手元スイッチを使用して利用者様を持ち上げることができます。一般的な利用者様の扱いと移動に関しては、「DPS スプレッダーバーの使用」セクションも参照してください。

上記の方法とは別に、DPS スプレッダーバーの使用が禁止される「下肢萎縮」利用者様の持ち上げに、ループスリング付きループスプレッダーバーも極めて有用です。スリングは「ベッドから持ち上げるには」スリングセクションで説明されているように取り付けてください。

ベッドから持ち上げるには

スリングをシーツのように利用者様の下に配置します。利用者様の脚部を曲げ、スリング脚部分を大腿部の下に配置します。スリングを上記方法 1 ～ 3 のいずれかの方法でスプレッダーバーに取り付けます。

注意：持ち上げる前にスリングの 4 点すべてがしっかりと接続されていることをチェックします。

床から持ち上げるには

注記：介助者によっては、この操作に大きめのスリングを使用することを好みます。

利用者様を起こし、座位または半座位姿勢になるように支えます。スリングを利用者様の背部に沿って下にスライドさせます。スリングの脚部分を所定の位置に配置します。利用者様の脚部を持ち上げてシャーシの上に乗せ、本リフト所定の位置に配置します （図 44 を参照）。ジブを可能な限り低くして、ショルダーループを取り付けます。利用者様の膝を曲げてスリングの脚部分に接続します。

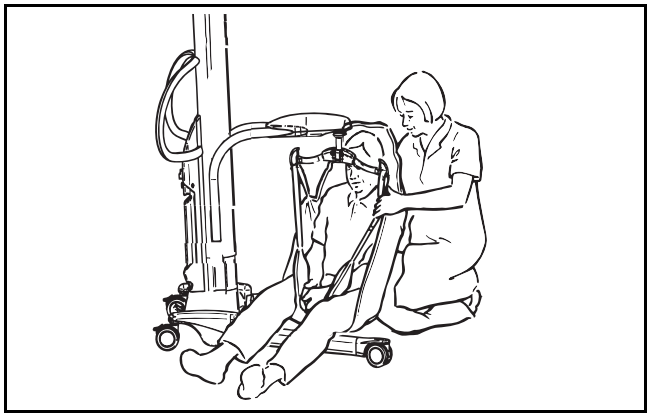


図 44

注意：利用者様を持ち上げる前にすべてのループがしっかりと取り付けられていることを確認します。

スリングで支えられた利用者様を昇降するときは、キャスターブレーキを使用しないでください。これにより、利用者様の重心を使ってリフトを正しい位置に移動することが可能となります。

利用者様をベッドに戻した時点で、スリングを取り外す前に利用者様を仰臥位にしてもかまいません。

警告：スプレッダーバーを下降させる際は、怪我を避けるため、利用者様と介助者両者の脚部と足が移動するマストから十分に離れていて接触することがないことを確認します。

ストレッチャーフレームの使用

警告：本リフトをストレッチャーと使用する際は、転倒事故を避けるため、移乗は平坦な場所でのみ行なってください。また、利用者様が常にストレッチャーの中央部に位置していることを必ず確認してください。

このストレッチャーフレームは、戸口を通過する際などにリフトからストレッチャーフレームを取り外す必要はありません。

警告：怪我を避けるため、ストレッチャーフレームが利用者様を移乗するめに使用されている場合には利用者様を昇降させないでください。

警告：拡張ジブを備えた Maxi Move では決してストレッチャーフレームを使用しないでください。付属品自体に示されているように、ストレッチャーフレームの安全耐荷重等級を遵守してください。

ソフトストレッチャーの使用

ソフトストレッチャーは、ストレッチャーフレームと併用されることが意図されており、以下の 2 種類のサイズでご利用いただけます：「大」および「特大」。材質は平織りポリエステルまたは洗浄用のメッシュポリエステルをご利用いただけます。両タイプとも、便器穴有り又は無しで利用できます。ストレッチャーフレームとソフトストレッチャーを使用して利用者様を持ち上げる際には以下の手順を使用してください。

注意：ソフトストレッチャーを MAXI MOVE と使用する前に、Arjo ストレッチャーフレームがキャリアに適切に取り付けられていることを確認してください （図 15 を参照）。適切に取り付けられたストレッチャーフレームは、その軸周りを約 90° 回転することができます。ストレッチャーフレームをジブに沿って一直線状に取り付けないでください。

ストレッチャースリングの頭部部分を特定してください。その頭部部分の端部に縫合されているラベルを探してください。

ソフトストレッチャースリングは、利用者様を横転させてシーツを挿入するように置いてください。スリングの上部セクション（スリングに貼付されたラベルによって示されているように）が利用者様の頭部の下になっており、スリングの上縁部が利用者様の頭上部と同じ高さになっていることを確認してください。（図 45 を参照）。ストレッチャーフレームをできるだけ高く上昇させた状態で、ストレッチャーフレームが利用者様の真上に位置するまで本リフトを移動します。

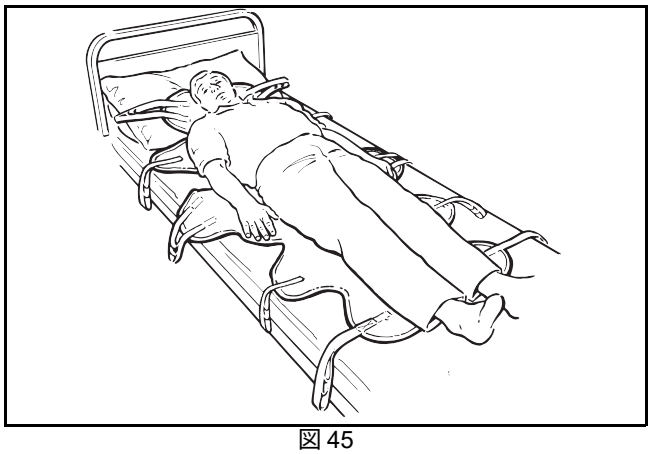


図 45

左右対称のフレームは、どちら側からでも使用できます（図 46 を参照）。

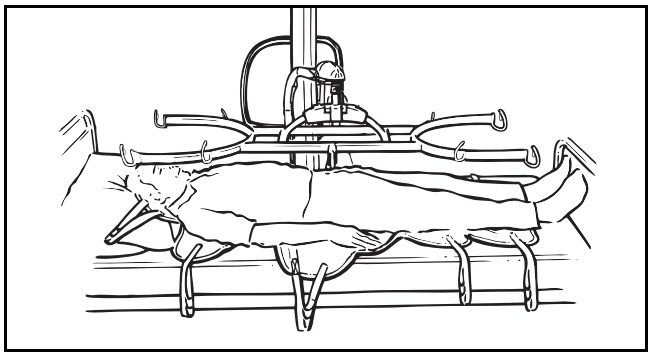


図 46

注意しながらストレッチャーフレームが利用者様の真上になるように下げます。フレームの中心が利用者様のへそのあたりにくるようにします。すべてのスリングループを確実に取付けます（図 47 参照）。

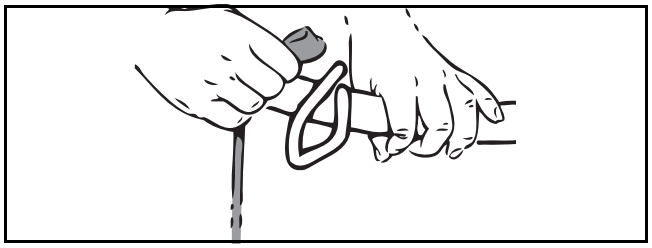


図 47

注記：取付ストラップにはいくつかの接続ループが付いています。利用者様様が最も楽な体位で横たわれるよう、最適なループを選択してください。

警告：本製品の安定性を確保し、利用者様と介助者の接触を維持するために、利用者様をほぼベッドの高さに維持することは必要不可欠です。

ストレッチャーフレームを下降させる際は、怪我を避け、本製品の安定性を維持するために、利用者様と介助者の脚部と足が可動マストから十分に離れていて接触することがないことを確認してください。

利用者様をベッドから持ち上げ移動します（図 48 参照）。

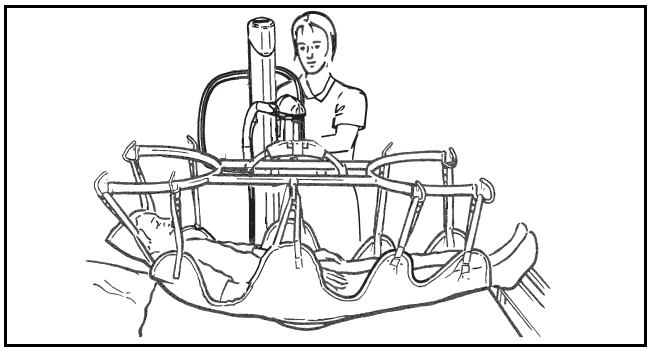


図 48

利用者様の足がマストに近接するまでストレッチャーフレーム回転させてください（図 49 を参照）。この位置では、ユニット全体を幅広い戸口に通して移動させることができます。あるいはストレッチャーをシャーシ脚部に対して垂直にしておいてください。この位置では、本リフトと利用者様とを戸口を横向きに通して移動させることができます。

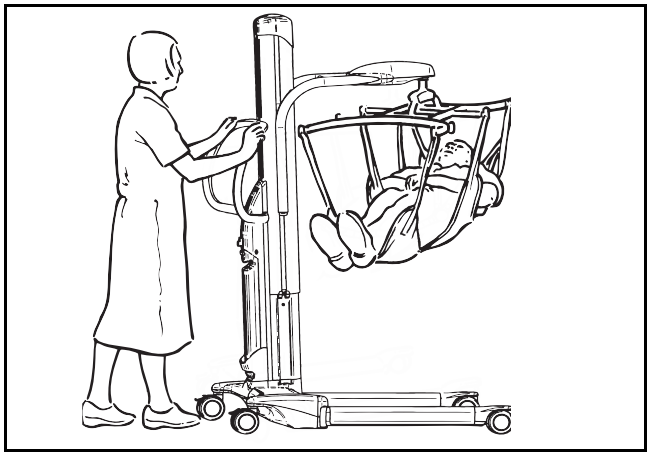


図 49

警告：利用者様の不快感または落下の危険性を防ぐため、すべてが青色の取付具ストラップの付いたソフトストレッチャーだけを使用してください。

注記：「頭側」のストラップには、他の Arjo ストレッチャーフレームでも使用できるよう黒いラベルが縫い付けられています。

他のいかなるタイプのソフトストレッチャースリングも MAXI MOVE とは使用しないでください。

ストラップストレッチャーの使用

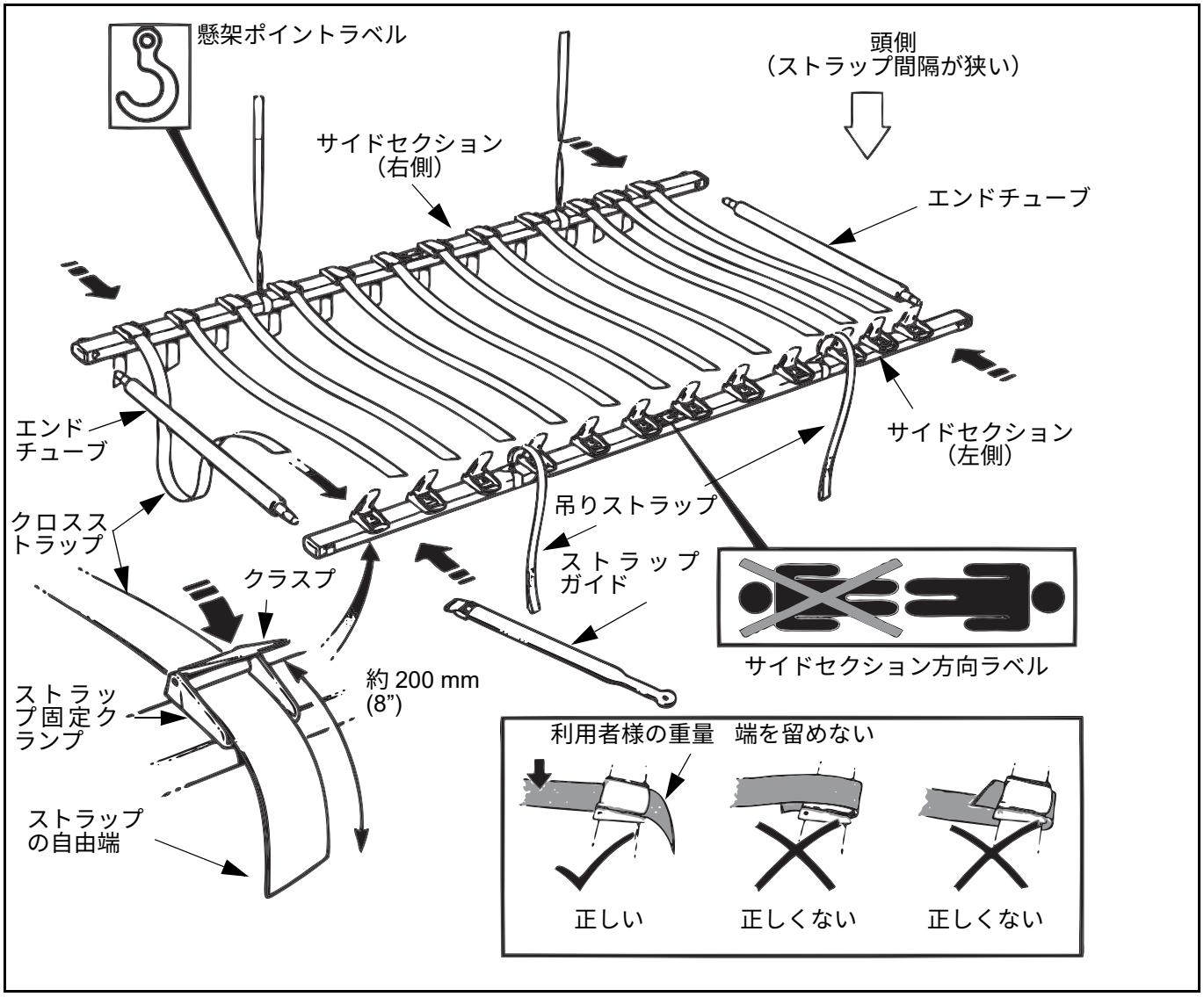


図 50

注意：ストレッチャーを MAXI MOVE と使用する前に、Arjo ストレッチャースプレッダーがキャリアに適切に取り付けられていることを確認してください （MAXI MOVE を参照）。適切に取り付けられたストレッチャースプレッダーバーは、その軸周りを約 90° 回転することができます。ストレッチャースプレッダーバーをジブに沿って一直線状に取り付けないでください。

最初に 12 のクロスストラップをサイドセクションの 1 つに取り付けます （図 50 を参照）。これを行うには、各ストラップを押してロッキングクランプを通過させ、クランプを完全に押し下げてそれをロックします。当初は、約 200 mm （8 in）のストラップをクランプ外側に残しておきます （図 49 の挿入図を参照）。

3 個の近接して位置づけられたストラップクランプがストラップストレッチャーの頭部側に位置づけられる必要があることに注意を払ってください（各サイドセクション上のラベルはこれを示しています）。

1 本のエンドチューブを利用者様の頭部の上に配置し、1 本をその足の下に配置します。次に、「ストラップしていない」側のサイドセクションを利用者様の横に置き （クランプは最上部）（図 50 参照）、各チューブの端を対応するサイドセクションの穴に通します。各エンドチューブをサイドセクションの対応する穴に押し通します。

長いストラップが付いた 「strapped」サイドセクションを利用者様に向けて保持し、長いストラップがサイドセクションの下に折りたたまれるように、ベッド上の利用者様の脇に配置します （図 51 を参照）前述のようにエンドチューブを接続します。

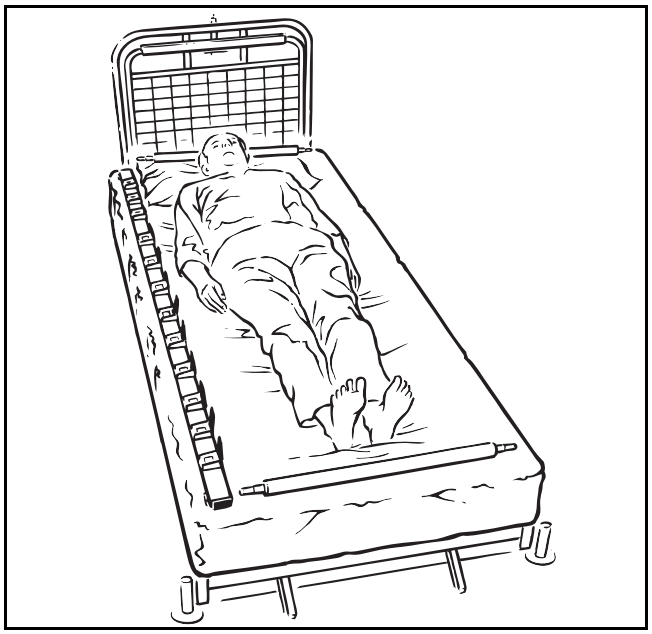


図 51

利用者様とベッドの間でストラップを容易にスライドできる箇所にストラップを挿入します。これを容易にするため、利用者様の頭部と脚部を持ち上げます。利用者様の体重がかかっている部分にストラップを挿入するには、以下のようにストラップガイドを使用します：

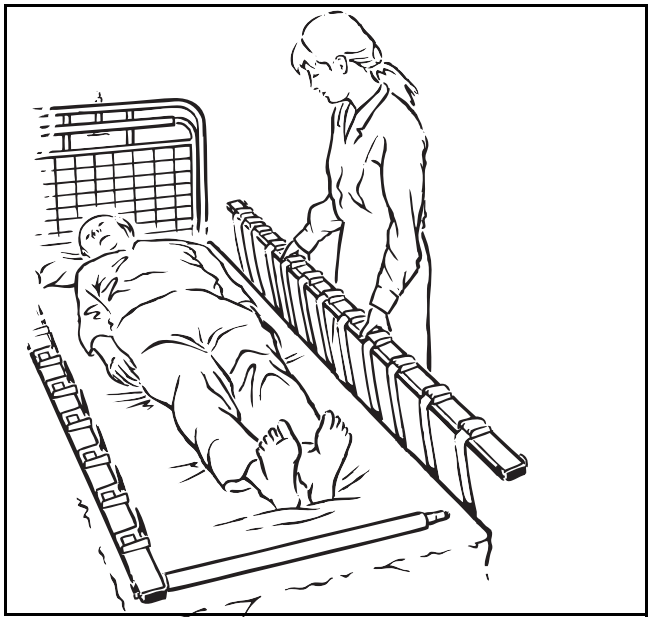


図 52

利用者様の下に配置される長いストラップを図 53 の挿入図のようにストラップガイドに通します。ストラップとストラップガイドを静かに利用者様の下に通し、ストラップが反対側から出てきたらストラップガイドから外し、反対側のストラップクランプに接続します （図 54 を参照）。ストラップガイドをスライドさせて利用者様の下から引き戻し、位置決めされたストラップの下に置いておきます。

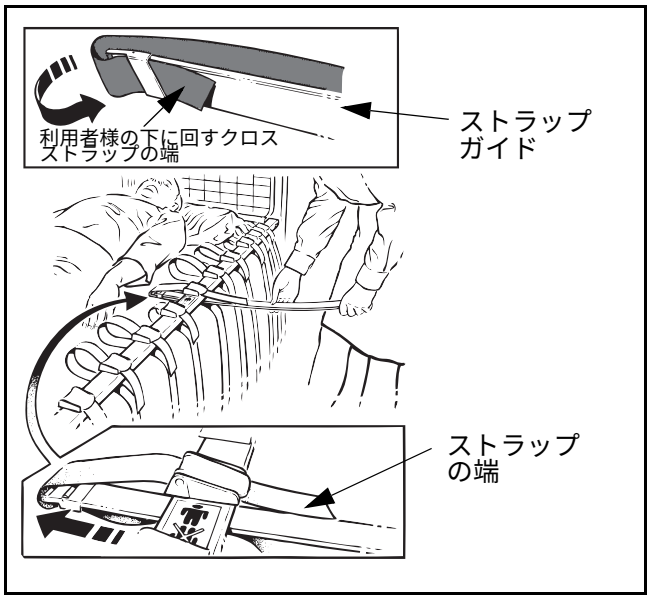


図 53

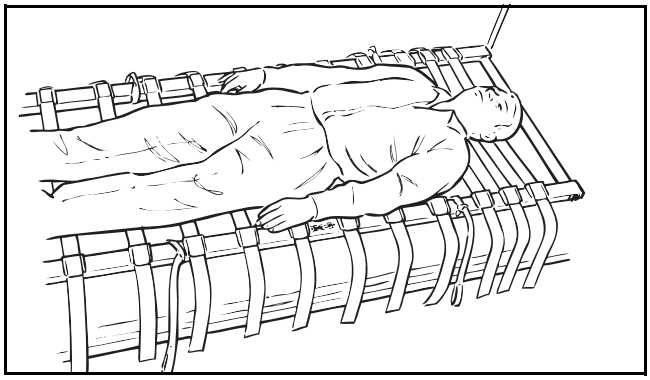


図 54

必要があれば、ストラップを枕の下にも通して利用者様の頭部を支え、より快適にすることができます （図 55 を参照）。

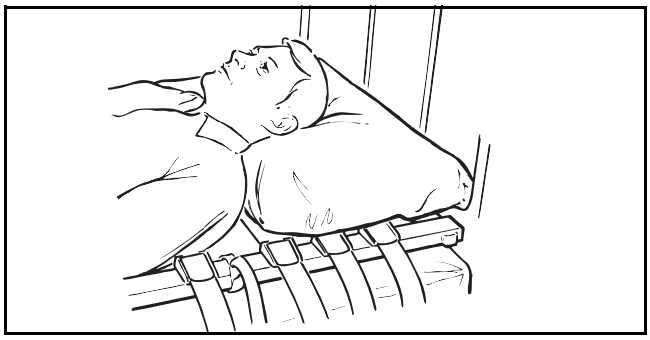


図 55

注意：4 本の吊りストラップが取り付けられていない場合は、それをフレーム側部にあるラベルが示す位置に固定します （図 56 を参照）。

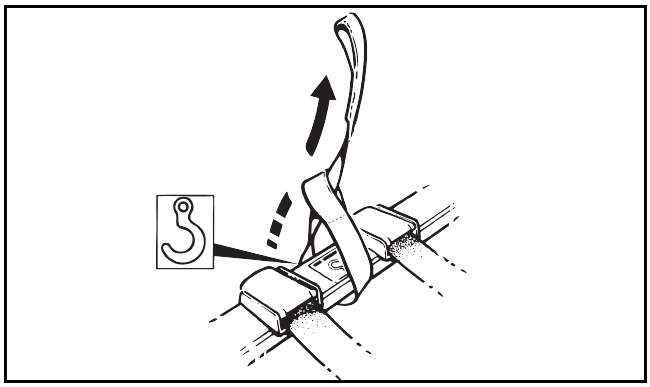


図 56

警告：特に肥満の方、健常者でも利用者様の臀部の下にストラップを通す際には、利用者様の皮膚をはさまないように注意してください。

すべてのストラップが利用者様の下に通されて、クランプ接続が完了するまで、以上の手順を繰り返します。各ストラップが適切な張力で所定の位置に固定されていることを確認するため、各クラスプを完全に押し下げます （図 53 および 図 54 を参照）。

すべてのクロスストラップは、直接クランプに挿入する必要があります。サイドセクションの周りを経由しないでください （図 53 を参照）。

両エンドチューブがそれぞれのサイドセクションに完全に挿入されていることをチェックします（矢印ラベルが正しく一致していること）。

怪我を避けるため、これらのすべての忠告に従ってください。

利用者様を持ち上げる前に、図 50 に示したように、すべてのクロスストラップがクランプに固定され、適切に位置決めされていること、およびすべての吊りストラップがストレッチャーフレーム上の適切なサポートフックにしっかりとに取り付けられていることが必要不可欠です。

本リフトをベッド方向に移動して、ストレッチャーフレームを利用者様の上で中心に位置決めし、懸架ストラップをフックにしっかりと取り付けられるようにします （図 57 を参照）。

ストラップまたはスクープストレッチャーは、ストレッチャーフレームに左右対称に掛ける必要があります。

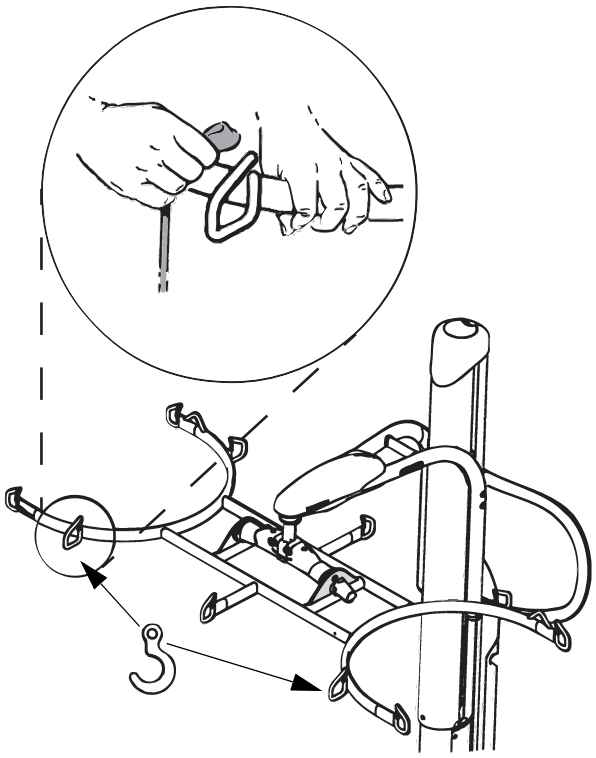
注意：すべてのストレッチャー吊りストラップが持ち上げのサイクル前とサイクル中に完全に適切な位置にあること、および利用者様の体重が徐々に支持されるにつれて適切な張力がかかることを必ず確認してください。

ストラップストレッチャーが接続されたら、利用者様がベッドから離れていて接触することがないように持ち上げます。次いで利用者様の足がマストに近接するまでストレッチャーフレームを回転します。この位置では、ユニット全体を幅広い戸口に通して移動させることができます。それ以外の場合は、ストレッチャーをシャーシ脚部に対して 90º にしておいてください。この位置では、本リフトと利用者様を横向きにして戸口を移動させることができます。

警告：本製品の安定性を確保し、利用者様と介助者の接触を維持するために、利用者様をほぼベッドの高さに維持することは必要不可欠です。

ストラップストレッチャーフレームを下降させる際は、怪我を避け、本製品の安定性を維持するために、利用者様および / または介助者の脚部と足が移動するマストから十分に離れていて接触することがないことを確認してください。

ストラップおよびスクープストレッチャーの接続フック配置



ラベル – ストラップおよびスクープストレッチャー取付具ストラップのフック位置

図 57

サポートクロスストラップは、利用者様の任意の部位にアクセスできるように、緩めて取り除くことが可能です。

注意：利用者様が安全確認支えられている状態を確保するため、1 度にあまりに多くのストラップを取り外さないでください。

利用者様がベッドに戻されてその上に下降された時点で、ストラップストレッチャーは、ストレッチャーフレームとの接続が外された後に取り除くことができます。これを行うには、片側のサイドセクション上のすべてのクランプを緩め、利用者様の下になっている各ストラップを静かに引き抜きます。フレームの接続を外して取り除いたら、次の使用に備えて注意深く保管します。

Arjo ストラップストレッチャー (700-14945) を使用した利用者様の持ち上げと移乗方法については、ストラップストレッチャーの取扱説明書 を参照してください。

体重計

体重計に関する情報

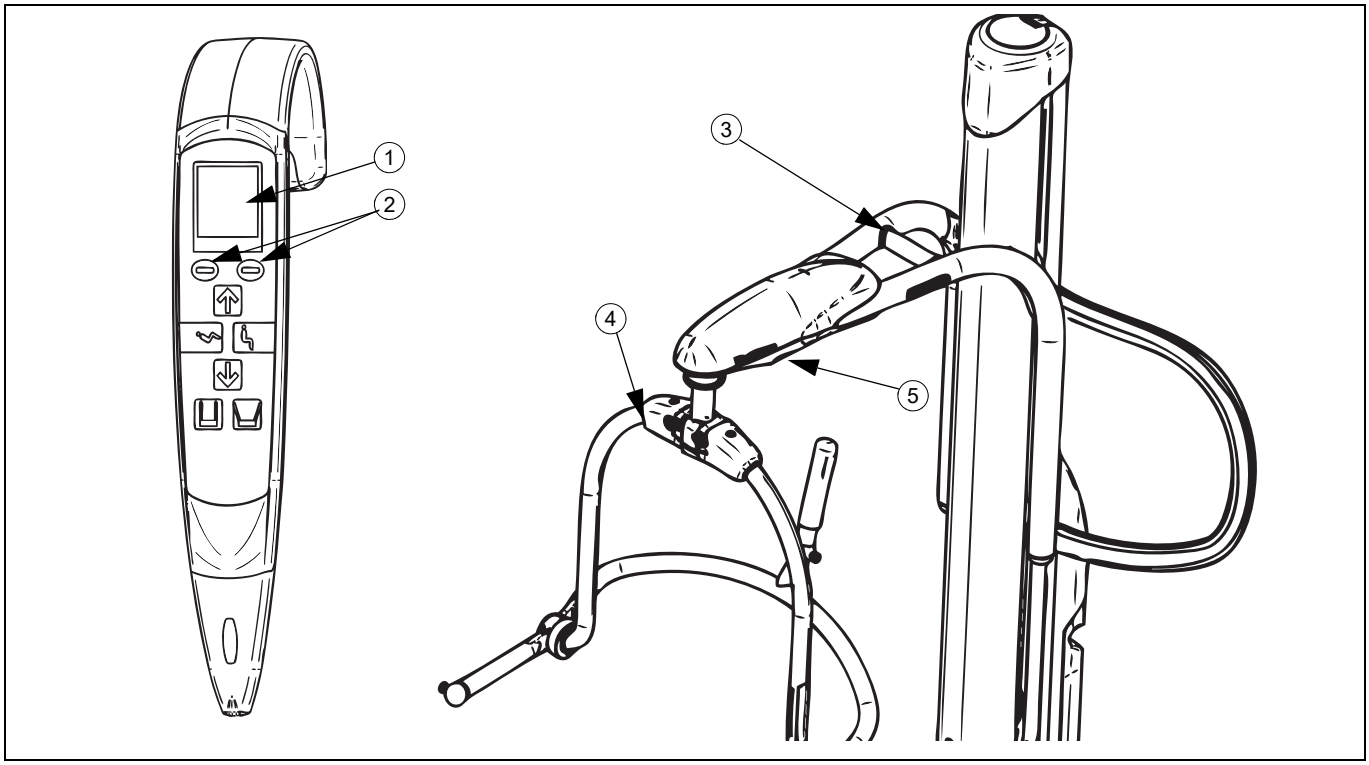


図 58

スケールへのキー （図 58）

1) 手元スイッチの体重計表示部
2) 手元スイッチボタンの操作
3) ジブ
4) スプレッダーバー
5) ロードセル用カバー

警告：この体重計は、訓練を受けた看護職員の監督の下で、病院または介護施設の利用者様を計量するように設計されています。怪我を避けるため、他のいかなる使用も避けてください。

MAXI MOVE に Arjo 体重計が装備されている場合は、このリフトには、持ち上げられた利用者様を計量することができるという利点があります。

記述的なマーク / シール C.E. （C.E. ユニットのみ）

検査後に以下のマークが体重計ラベル上に表示されます （図 59 を参照）：

- CE マーク（欧州共同体の統一法への適合を示し、その後に続く 2 桁の数字は、マークの添付年度を示します）（図 1 参照）
- EU 調査を実行した通知機関の ID 番号
- EU 型式認証
- 精度等級
- 最大容量
- 最小容量
- 認証間隔
- 校正カウンター
- 重力設定カウンター
- 検査機関の ID と番号を表示するシール

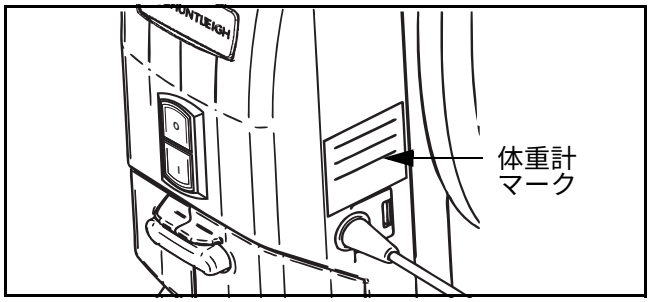


図 59

再検査

認証体重計の再検査は地方自治体 （各国が指定）が定める規定に基づいて実施する必要があります。

ロードセルの修理または交換などでシールが破れた場合は、床走行式リフト全体が失格となり、認証検査機関によって再検査が実施されるまで使用しないでください。

表示記号 / 機能

手元スイッチには、様々な数字と記号を表示する LCD が付いています。

LCD 画面は、体重をポンド単位でもキログラム単位でも表示することができます。

マイナス記号 (-) は重量が負の場合に表示されます （「方法 B - 既にスリング懸架された利用者様の計量」セクションを参照）。

本体重計は、重量を 「総重量」モードでも 「正味重量」モードでも表示することができます。

体重計

追加の機構には、バッテリー充電表示と予防保全表示が含まれます。

過重量警告記号

荷重が体重計の安全耐荷重 (SWL) を超えると、体重計は 「大重量絵文字」と 「小重量絵文字」を交互にに表示します（体重計のユーザー取扱説明書を参照）。

この警告は重量制限に基づいて表示されます：

- 標準ジブの場合：227.9 kg を超える負荷
- 拡張ジブの場合：130.9 kg を超える負荷

体重計が過重量状態になった場合は、ただちにその荷重を除去してください。その記号の表示が消えるまで、体重計 / リフトを移動しないでください。

注意：本体重計を過重量状態にしないでください。この体重計ユニットが体重計記号の大画像と小画像を交互に表示する場合、ただちに利用者様をベッド上にまたは椅子に下降させてください。

注記：＜欧州向け体重計のみ＞表示部がを示すより大きな「チルト」記号と体重計記号を交互にに表示する場合、体重計を適切に操作することができるように、MAXI MOVE を水平な位置に再配置してください （図 60 を参照）。

注記：本リフトの移動中や操縦中に表示部が、時折「チルト」絵文字を表示することがありますが、これは正常なことです。

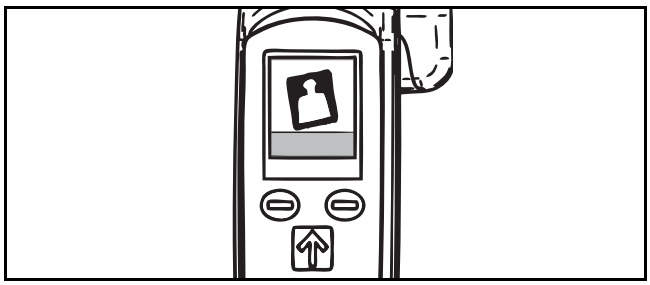


図 60

注意：計量操作中に、利用者様の体、ジブまたはスプレッダーバーに触れたり、もたれかかったりする行為は行わないでください。ジブおよびスプレッダーバーは計量機器の不可欠な部分ですので、計量中には、利用者様の体、スリング、またはスプレッダーバーのいかなる部分も、マストやジブに接触しないようにしてください。

警告：怪我を避けるため、利用者様が動揺している場合、介助者は動揺が治まるまで待ってから、再び計量を試みる必要があります。

総重量は、電源投入時の重量基準値ゼロを意味します。正味体重は、荷重がジブに懸架されているときに体重計の表示をゼロに設定することができる「風袋」機能によって決定される荷重値として定義されます。

利用者様の計量には以下の 2 種類の方法があります：

注意：この体重計が自動ゼロリセットを行うためには、本製品は電源が投入されるときに平坦な水平面上で静止状態でなければなりません。

本体重計が 「0.0」を表示するまで、本リフトまたはそのコンポーネントを操作しないでください。上記を守らない場合、体重計が不正確な読み取り値を表示することがあります。

方法 A - 利用者様がスリング懸架される前の計量

1) 電源ボタンを押して、 MAXI MOVE の電源を入れます。
2) 起動時にスリングが既にスプレッダーバーに取り付けられている場合には、MAXI MOVE は既に自動的にゼロ設定されており、スリングの体重は勘案されています （図 61 を参照）。

手順 4 に進みます。

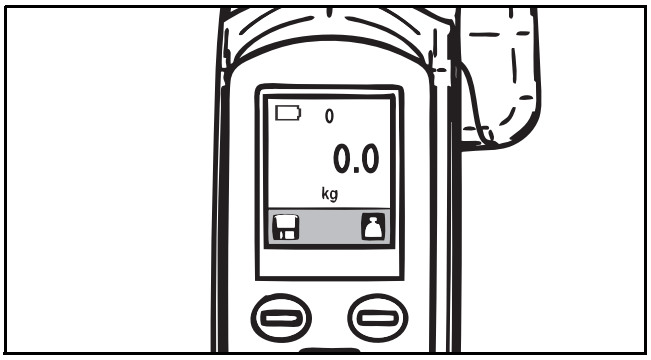


図 61

起動時に本リフトにスリングが懸架されていない場合は、スリングを取り付けます。ここで体重計はスリングの重量を画面上に表示します（図 62 を参照）。

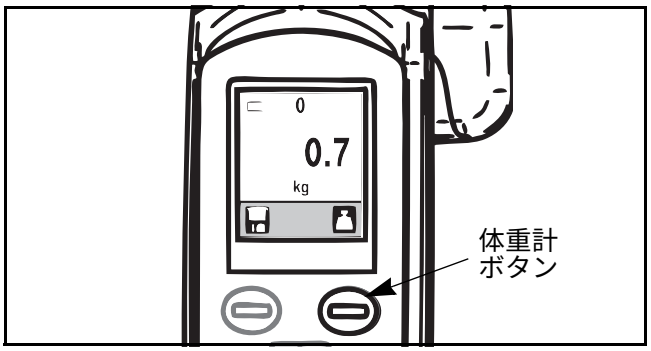


図 62

3) 「体重計」ボタンを押して体重計をゼロに設定します。これで表示部にゼロ重量が表示されます （図 63 を参照）。

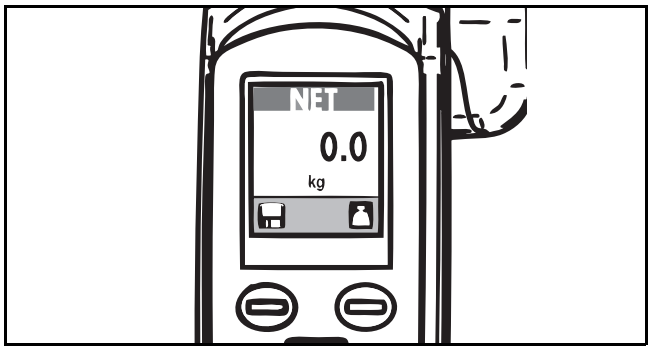


図 63

4) 利用者様がベッド、椅子、床などの障害物から離れていて接触しなくなるまで持ち上げます。重量の読み取り値が安定するまで待ちます。

表示される数字は利用者様の体重を示すまで、ボタンを再度押さないでください（図 64 を参照）。

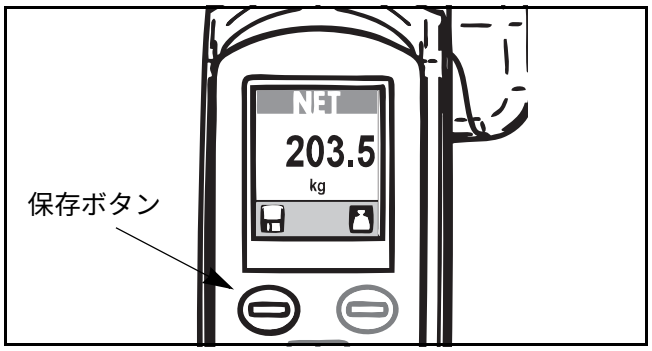


図 64

5) 正味重量をメモリに保存する必要がある場合は保存ボタンを押します。正味重量をメモリに保存する必要がある場合は保存ボタンを押します。画面上の数字 （計量値）の上下に水平バーが表示されて、保存機能が起動されたことを示します。「保存」機能は保存ボタンが再度押されるまで有効です （図 65 を参照）。

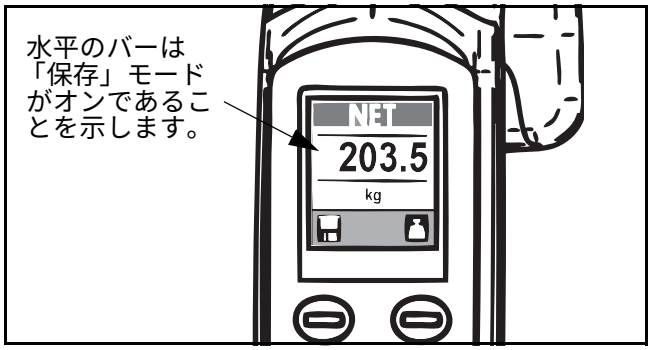


図 65

方法 B - 既にスリング懸架された利用者様の計量

既にリフトに乗せている利用者様の体重を測定する必要がある場合、懸架されている利用者様がベッド、椅子、床などの障害物から離れていて接触することがないことを確認してください。

1) 体重計ボタンを押してゼロの読み取り値を表示させます （図 66 を参照）。

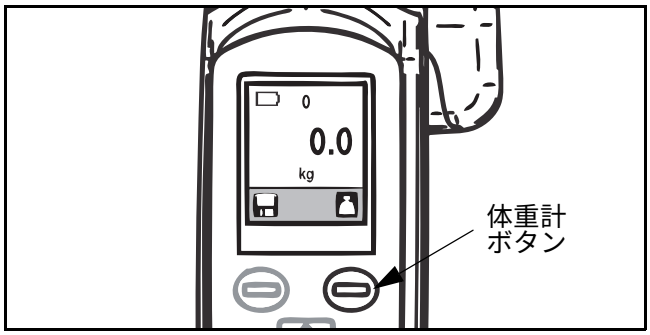


図 66

2) 移乗を完了して利用者様をリフトから降ろします。体重計にマイナスの数字が表示されます （図 67 を参照）。

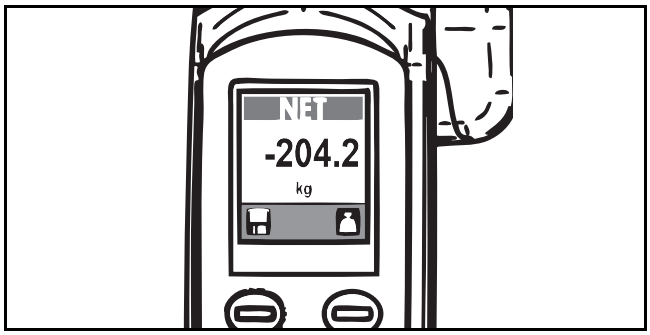


図 67

3) スリングを再び MAXI MOVE にスリングに取り付けます。画面上に表示されている数字の前に付いたマイナス記号は無視します。重量の読み取り値が安定化するまで待ちます。ここで表示される重量は利用者様の実際の体重です （図 68 を参照）。

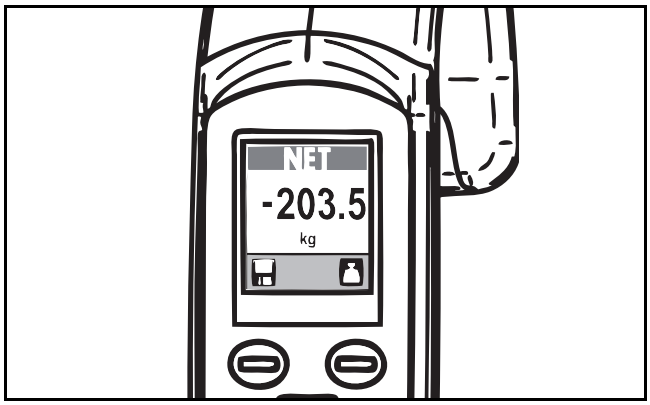


図 68

4) 正味重量をメモリに保存する必要がある場合は保存ボタンを押します。正味重量をメモリに保存する必要がある場合は保存ボタンを押します。画面上の数字 （計量値）の上下に水平バーが表示されて、保存機能が起動されたことを示します。「保存」機能は保存ボタンが再度押されるまで有効です。

注意：利用者様がスリングで懸架されているときに本製品がリセットされると、体重計は、ゼロ範囲から逸脱して、「8888.8」を表示して 「エラー」ステータスであることを示します。利用者様を MAXI MOVE から降ろし、本製品をリセットします。

体重計

測定単位

表示単位は欧州向けにキログラム単位に設定されていて、変更することはできません。欧州向けでない機器では、測定単位を 「kg」または 「lb」のいずれかに設定することができます。

1) 起動時に、本体重計の両方の操作ボタンを同時に押します （図 69 を参照）。

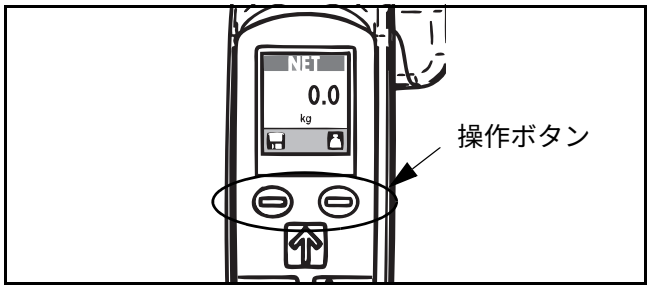


図 69

これは、ホイストステータス画面へのアクセスを提供します。2 個の交差レンチが画面中央に表示されます。また、上下の矢印が画面の上下部に表示されます （図 70 を参照）。

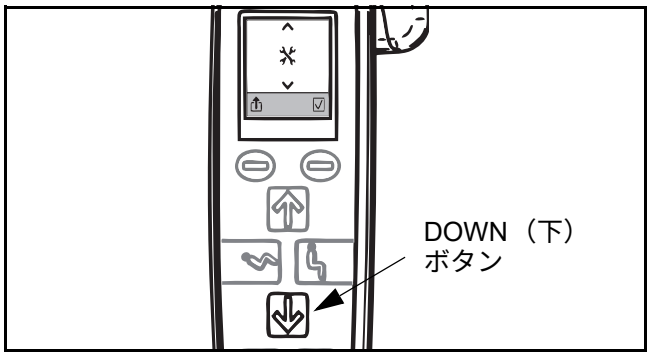


図 70

2) 次に、「DOWN」ボタンを押して設定メニューにアクセスします。

画面中央に表示されていた交差レンチは体重計アイコンで置換されます （図 71 を参照）。

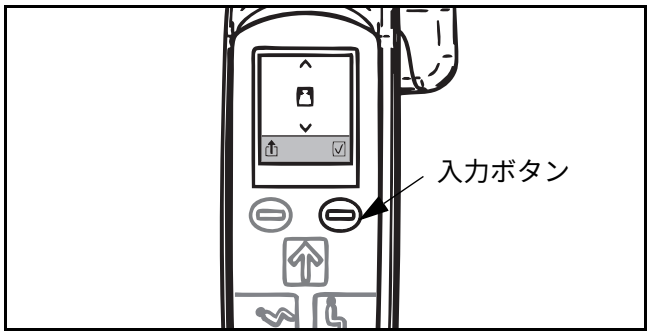


図 71

3) 入力ボタンを押して測定単位オプションにアクセスします。測定単位 「kg」または 「lb」により、中央画面の体重計アイコンが置換されます （図 72 を参照）。

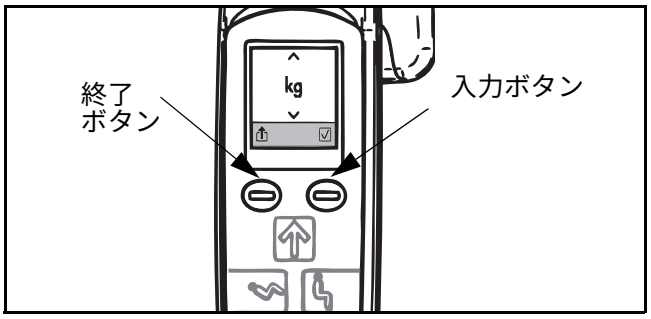


図 72

4) 「DOWN」ボタンを押して表示を 「kg」または 「lb」に切り替えます。

5) 設定を保存して正常モードに戻るには入力ボタンを押します。設定を保存しないで終了するには終了ボタンを押します。

体重計 - 手元スイッチに関する注意事項ミニガイド

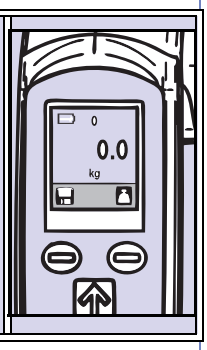
方法 A

起動時

スリングが既にスプレッダーバーにある場合

手順 1

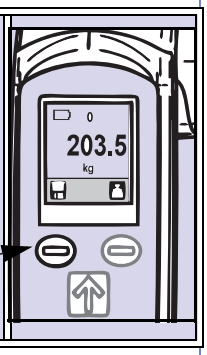
本製品は既に自動的にゼロ設定されていてスリングの重量も考慮されています。



手順2

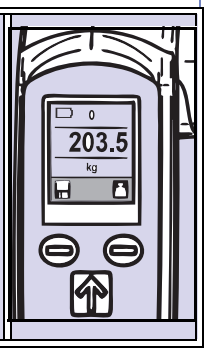
利用者様を計量します。表示部上の数字は利用者様の実際の体重です。

保存ボタン



データを保存するには

保存ボタンを押して画面に表示された測定値を保存します。再度保存ボタンを押して正常モードに戻ります。



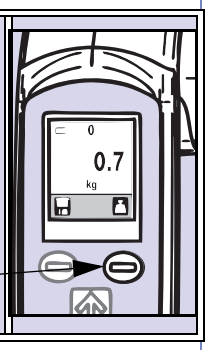
起動時

スリングがまだスプレッダーバーにない場合

手順 1

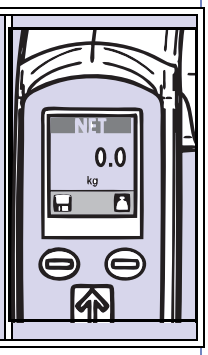
スリングをスプレッダーバーに取り付けます。表示部にスリングの重量が表示されます。

体重計ボタン



手順2

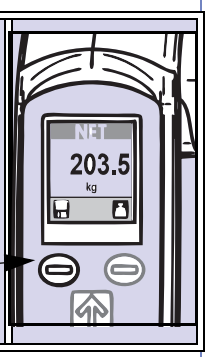
体重計ボタンを押して風袋処理します。これで表示部にゼロ重量が表示されます。



手順3

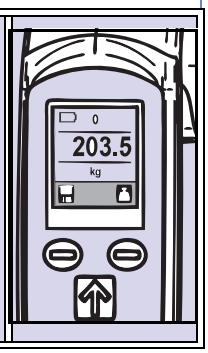
利用者様を計量します。表示される数字は利用者様の実際の体重です。

保存ボタン



データを保存するには

保存ボタンを押して画面に表示された測定値を保存します。再度保存ボタンを押して正常モードに戻ります。



方法 B

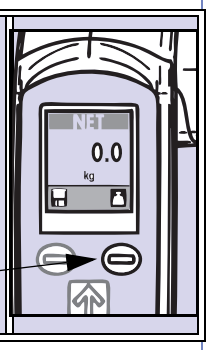
移動中

利用者様が既にリフトに乗っている場合

手順 1

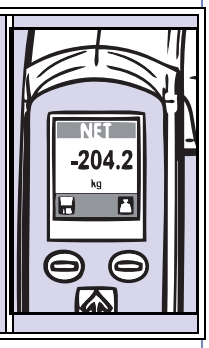
体重計ボタンを押してゼロの読み取り値を表示させます。

体重計ボタン



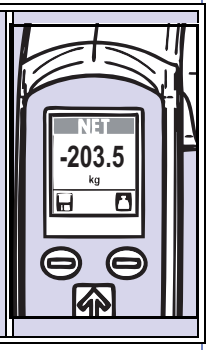
手順2

移乗を完了して利用者様をリフトから降ろします。表示部の読み取り値はマイナスの数字になります。



手順3

スリングを再びスプレッダーバーに取り付けます。マイナス記号は無視します。表示部の読み取り値は利用者様の実際の体重です。



データを保存するには

保存ボタンを押して画面上の体重を保存します。保存ボタンを押して正常モードに戻ります。

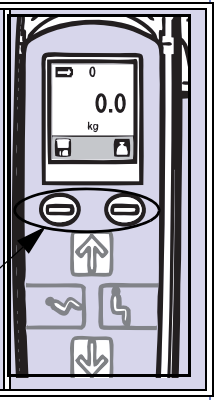
体重計 - 手元スイッチに関する注意事項ミニガイド

測定単位を変更します

起動時

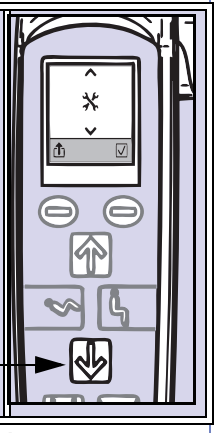
手順 1

ホイストステータス画面を表示するには両操作ボタンを同時に押します。



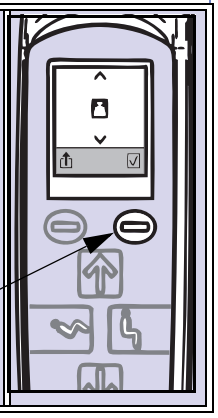
手順2

設定画面にアクセスするには手元スイッチ上の「DOWN」ボタンを押します。表示される最初の画面は重量単位画面です。



手順3

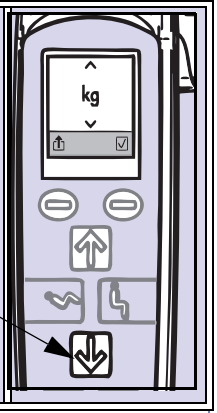
保存ボタンを押して画面に表示された測定値を保存します。再度保存ボタンを押して正常モードに戻ります。



（次のコラムに続く）

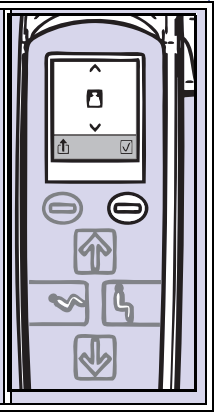
手順 4

表示を「kg」または「lb」に切り替えるには「DOWN」ボタンを押します。



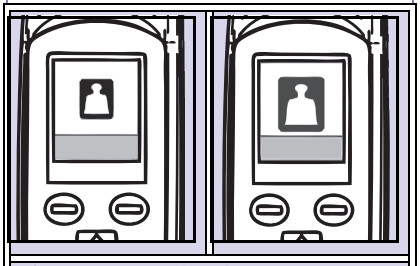
手順 5

設定を保存して正常モードに戻るには入力ボタンを押します。



警告画面

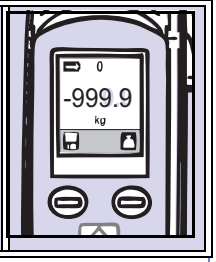
過重量警告



表示部に体重計の大記号と小記号が交互に表示されます。ただちに利用者様を下降させます。

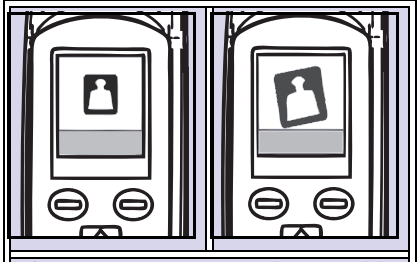
重量不足警告

表示部には下限値が表示されます。重量を取り除き、リフトをリセットします。



傾斜警告（欧州向け体重計のみ）

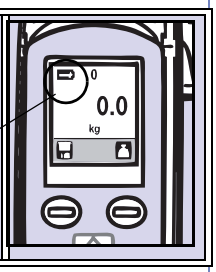
（欧州向け体重計のみ）



表示部に体重計記号と大きな傾斜記号が交互に表示されます。水平な床面に再配置して再度計量を試みます。

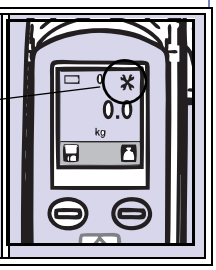
低バッテリー残量

表示部の左上コーナーに低バッテリー残量記号が表示されます。できるだけ早くバッテリーを再充電します。



その他の警告

表示部の右上コーナーに交差レンチが表示されます。Arjo サービス技術者までご連絡ください。



バッテリー充電中

MAXI MOVE はコントロール手元スイッチに伴うバッテリー充電表示機構を搭載しています。本バッテリーの充電レベルは初期起動直後またはスリープモードから復帰後に自動的に LCD に表示されます （図 73 を参照）。

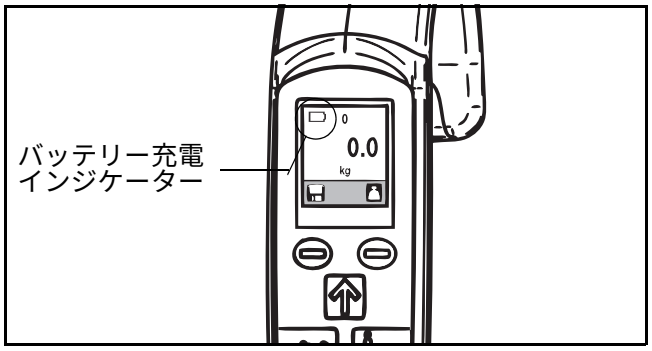


図 73

バッテリー寿命を伸ばすには、低充電状態になる前にバッテリーを定期的に充電することが推奨されます。バッテリーを不必要に放電させないように注意を払う必要があります。

コントロール手元スイッチ上のバッテリーインジケーターは、 MAXI MOVE のバッテリーがほとんど完全な放電状態になったことを表示し、 1 分ごとにビープ音を 2 回発生します（図 74 を参照）。その時点では、移乗を完了させ、バッテリーを充電する必要があります。

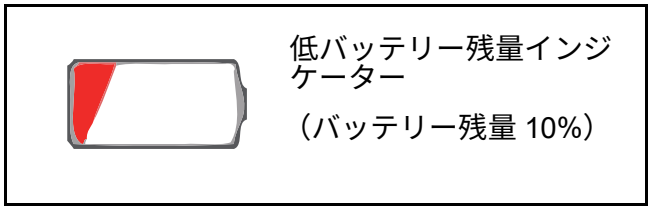


図 74

バッテリーが完全に放電した場合、本リフトは自動的にスリープモードに入ります。その状態で本リフトの使用を試みると、本製品はビープ音を 3 回発生し、手元スイッチに低バッテリー残量アイコンが短時間表示されます。本リフトは次いでスリープモードに復帰し、バッテリーが充電されるまで操作不可能になります。

バッテリー

バッテリーの寿命は変動（2 ～ 3 年）し、適切な充電慣行と負荷量の影響を受けます。

注意：バッテリーは、本製品の効率と本バッテリー寿命の延長を確保するため、本リフトを初めて使用する前に最低 8 時間充電する必要があります。

バッテリーの取り外し

コントロール手元スイッチ上のバッテリー充電表示に低バッテリー残量アイコンが表示されたら、持ち上げ・移乗サイクルを完了してください。次いで本リフトを適切な位置に移動して、バッテリーを取り除きます。この着脱可能なバッテリーにより、放電したバッテリーに起因するダウンタイムを削減できます。放電したバッテリーを取り除くには、赤のボタンを押し、手前方向に一直線に引き抜きます （図 75 を参照）。そのパックを、壁掛け式充電ユニットの 1 つでフル充電されたバッテリーと交換します。

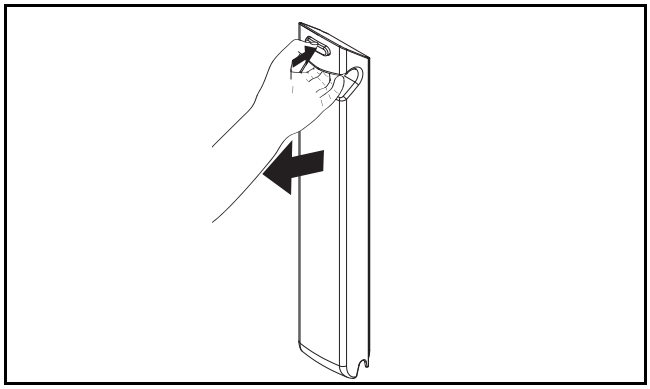


図 75

バッテリーの充電

MAXI MOVE には、コントロールボックスの下に取り付けられた密閉形鉛蓄電池が使用されています。鉛蓄電池はメモリー効果の影響を受けません。よって、これらの蓄電池は充電する前に完全に放電させる必要がありません。コントロールボックスには、本リフトがスタンバイモードにあるときにバッテリー放電を防止するため、2 分間使用されないと起動して電源を遮断する自動遮断制御機能が搭載されています。本リフトへの電源は、手元スイッチまたはコントロールパネルの任意のボタンを押すことによって再起動されます。

本リフトが長期間使用されない場合はバッテリーを取り外すこと、およびコントロール手元スイッチ上のバッテリー放電インジケーターに低バッテリー残量表示が表示されたときに再充電を行うことを推奨します。

バッテリー寿命を伸ばすには、低充電状態になる前に充電してください。

このリフトには、手元スイッチ上のバッテリー放電インジケーターに低バッテリー残量アイコンが表示されると警告音を発する可聴警告装置が搭載されています。

MAXI MOVE が必ずいつでも使用できる状態であることを確保するため、フル充電されたバッテリー常備しておくことを推奨します。バッテリーを常備しておくことで、 1 個のバッテリーを使用中に別の 1 個を充電しておくことができます。

バッテリー充電中

フル充電されたバッテリーが本リフトに挿入されると、手元スイッチ上の表示部に緑のフル充電されたバッテリー記号が表示されます。ただし、部分的に充電されたバッテリーが挿入されると、手元スイッチの表示部には挿入されたバッテリー充電状態を反映する記号が表示されます。

本製品用に設計され表示されているバッテリーだけを使用してください。確認できないバッテリーは使用しないでください。使用しようとするバッテリーは、そのバッテリーのラベルを本取扱説明書の技術仕様と比較参照して、本装置用に適合することを必ず確認してください。バッテリーのタイプを確認できない場合は、有資格者に連絡してください。

本バッテリーの再充電：

壁掛け式バッテリー充電器 - 取扱説明書を参照してください。

警告：バッテリーは、落として損傷させたり、怪我を引き起こしたりしないようにしっかり保持してください。

警告：火災および / または化学物質が漏れ出す危険性を避けるため、本バッテリーを直射日光のあたる場所や熱源の近くに配置したり、保管したりしないでください。

警告：バッテリーを火気に近づけないでください。バッテリーや充電器から化学物質が漏れ出す可能性があります。

遵守すべき優れたプロトコルには、作業シフトごとにフル充電されたバッテリーを準備しておくことが含まれます。

本バッテリーのリサイクルと廃棄に関しては、現地の法令に従ってください。規定や法令を遵守しない場合は、バッテリーの爆発、漏出および怪我を引き起こすことがあります。バッテリーを返送する場合は、その端子間を接着テープで絶縁してください。使用されたバッテリー内部の残留電気により、火災や爆発を生じることがあります。以下のダイアグラム図には廃棄記号とリサイクル記号が示されています （図 76 を参照）。

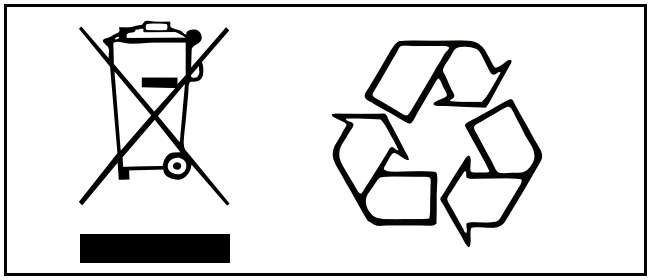


図 76

バッテリーと充電器の安全対策

壁掛け式バッテリー充電器 - 取扱説明書 001-24257-** を参照してください。

MAXI MOVE の手入れ

以下の対応は、本製品の使用頻度により異なります。

別段の記載がない限り、毎回の使用前にこのセクションに記載の洗浄手順、管理手順および点検手順に従ってください。

スリングの洗浄と管理

スリングは各利用者様による使用前後に必ずチェックし、必要であれば当該スリングに関する注意事項に厳密に従って洗浄する必要があります。これにより交差感染の危険性を最小限に抑えられますので、同一製品を別の利用者様に使用される場合には特に重要です。

洗浄・乾燥手順中の転圧、押圧などの機械的圧力は、スリングの安全性を損ない、快適な操作に重要な部品を損傷する可能性があるため、避ける必要があります。

ストラップストレッチャーのクロスストラップおよび吊りストラップは、確認の必要があり、必要に応じて洗浄してください。洗浄温度は 80°C (176°F) を超えてはなりません。中性洗剤を使用した洗浄。アイロンを使用しないでください。また、スリング指示シートも参照してください。

使用前には毎回必ず、スリング、そのストラップ、ループおよび取付クリップが入念に点検されることが必要不可欠です。スリング、ループまたはストラップの縫製糸がほつれたり、クリップが損傷している場合には、スリングは使用してはならず、ただちに交換する必要があります。

リフトの洗浄、消毒、ケア

注記：本リフトとその付属品は、各利用者様の使用後に洗浄することを推奨します。

警告：目と皮膚の怪我を避けるため、本リフトまたはその付属品の消毒は、利用者様のいる場所で行ってはいけません。また、消毒の際には必ず保護メガネと保護手袋を使用してください。万が一付着した場合、大量の水で洗い流してください。目や皮膚に炎症が起きたら、医師の治療を受けてください。消毒剤に関連する化学物質安全性データシートを必ず読んでください。

目に見える残留物の除去

1) バッテリー、およびスリング、クッション、吊りストラップなどの一般部品 （該当する場合）を取り外します。
2) 水に浸した布を使用して、 MAXI MOVE から目に見える残留物を取り除きます。洗浄は、上部から下方に向かって行います。
3) 洗浄液と混合した水に浸した布で取り外した部品とバッテリーから目に見える残留物を取り除きます。

洗浄

1) 洗浄液に浸したブラシまたは布を使用して、本リフト、バッテリーおよび取り外した部品をしっかり拭きます（沈着・堆積物を取り除くため）。
2) 水で湿らせた新しい布を使用して、本リフト、バッテリーおよび取り外した部品からすべての洗浄液をふきとります。
3) 手の届きにくい部分から洗浄液を取り除くことができない場合には、その部分に水をスプレーし、使い捨てタオル / 布でふきとります。すべての洗浄液を完全に取り除くまで、この手順を繰り返します。
4) 手順 1 ～ 3 を繰り返します。
5) 洗浄した部分を乾燥させてください。
6) 取り外した部品およびバッテリーパックを本リフト上に再取り付けします。

注意：本製品を水浸しにしないでください。電気部品を損傷させ、内部の腐食を引き起こす可能性があります。

熱風乾燥器を使用してリフトまたは機器を乾燥する場合は、その温度が 80°C を超えないで下さい。

石油ベース溶剤は、プラスチック部品を損傷させることがありますので、使用しないでください。

注記：以下に特定されている箇所には特別な注意を払ってください （図 77 を参照）。これらは、病原菌の温床となる可能性が最も高い箇所です。これらの箇所にアクセスするには、小さなブラシおよび / または綿棒などを使用してください。

MAXI MOVE の特別な洗浄・消毒箇所

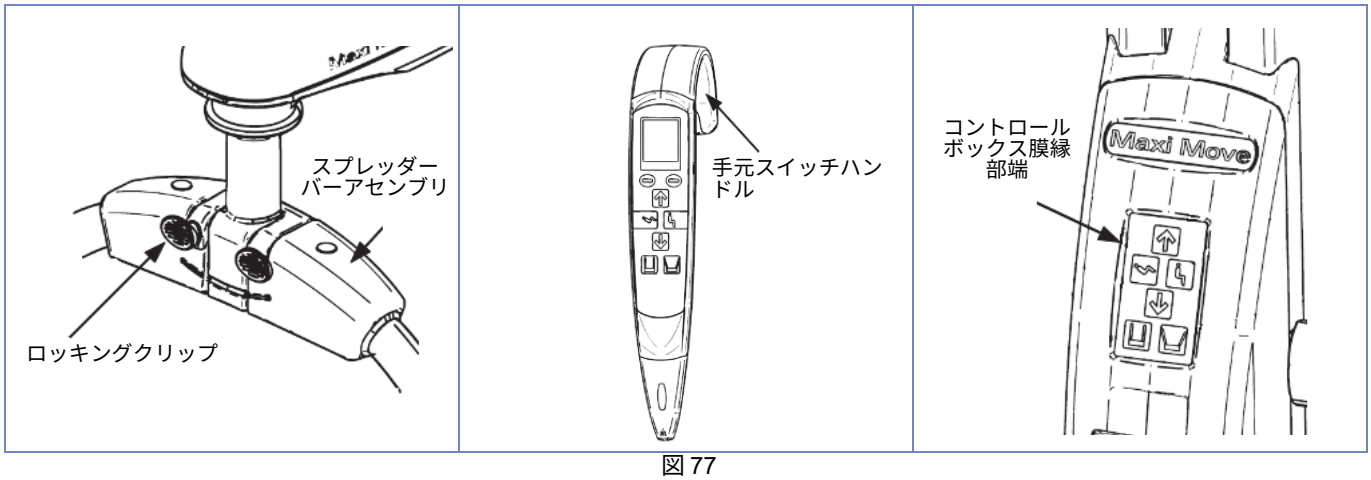


図 77

MAXI MOVE の手入れ

消毒

機器を消毒するには、まず機器を清掃してから、次の消毒剤のいずれかを含む溶液で拭いてください。

消毒剤	Maxi Move	ロッキングクリップ	スプレッダーバーアセンブリ	手元スイッチハンドル	コントロールボックス膜縁部端
第四級アンモニウム ≤ 0.28% (2,800 ppm)	X	X	X	X	X
イソプロピルアルコール ≤ 70%	X	X	X	X	X
フェノール ≤ 1.56% (15,600 ppm)	X	X	X	X	X
過酢酸 ≤ 0.25% (2,500 ppm)	X	X	X	X	X
漂白剤 ≤ 1% (10,000 ppm)	X	X	X	X	X
過酸化水素 ≤ 1.5%	X	X	X	X	X

注記：機器を消毒すると、機器の一部が変色することがあります。手元スイッチケーブル （漂白剤および / または過酸化水素）および DPS ハンドル （過酸化水素）は、上記の消毒剤と繰り返し接触すると、少し汚れたように見える場合があります。

消毒方法は、医療施設または使用国に応じた地域または国のガイドライン （医療機器の除染）に準拠する必要があります。ご不明な点は、地域の感染管理担当者にご相談ください。

イソプロピルアルコール 70% の v/v 溶液を染みこませた消毒済みティッシュを使うこともできます。本リフト表面の効果的な消毒を促進するため、本製品をワイプでしっかりとこすります。70% v/v イソプロピル・アルコールによる拭き掃除は、軽く汚れた状態のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌などいくつかの微生物に対して効果を発揮することが証明されています。

MAXI MOVE の手入れ

必須の日常点検

以下のチェックは毎日実行される必要があります。

- バッテリーが常にフル充電されていることを確認します。
- キャスターがシャーシにしっかり固定されているか確認します。
- すべての部品、特に利用者様の体と密接な接触がある箇所を注意深く点検します。利用者様の皮膚を傷つけたり非衛生的になり得る亀裂や鋭角部分がないことを確認します。
- すべての外部取付金具が固定され、ネジやナットがすべて締まっているか確認します。
- すべての指示ラベルがしっかり貼付され、判読可能であることを確認します。

定期的なテスト

一部のテストは、週に 1 回の間隔で行う必要があります。すべての機能が作動することを確認するため、様々な機能の定期的なテストを行うことが推奨されます。質問やご不明な点がある場合、または本リフト製品の性能が変化した場合は、最寄の Arjo 代理店にご連絡ください。

持ち上げメカニズムと下降メカニズムの完全かつ効率的な動作のテスト：コントロール手元スイッチを使用してジブの持ち上げと下降を行う。コントロールパネル上のボタン・スイッチでもメカニズムをテストする。

自動停止機能：ジブを最も低い位置よりも十分に高くした状態、および本リフトを空のベッド上に位置づけした状態で、手元スイッチコントロールを使用してジブをベッド上に下降させます。ジブの下降が制限されるようになると、昇降モーターが停止します。 1 ～ 2 秒後に手元スイッチの「DOWN」ボタンを解除します。コントロール手元スイッチを使用してジブを上昇させます。次いで、コントロールパネルを使用してこのテストを繰り返します。これは、自動停止の適切な機能をチェックするテストです。

即時停止：即時停止機能をテストするには、リモートコントロール手元スイッチを操作してジブを上昇または下降させます。操作を継続しながら、緊急停止ボタンを押します（図 9 を参照）電動動作がただちに停止する必要があります。

電源ボタンを押して正常な機能にリセットします （図 9 を参照）。コントロールパネル使用このテストを繰り返します。正常な機能へのリセット。このチェックを、シャーシの開脚 / 閉脚機能、およびリセット電源ボタンに対しても繰り返します。

幅調節可能なシャーシ機能：コントロール手元スイッチまたはコントロールパネルを使用して、シャーシー脚部の開閉を行い、完全かつ効率的な動作をチェックします。

一般的なリフト（持ち上げ）条件：使用中に損傷が発生していなことを確認するため、すべての外部部品の一般的な目視検査を行い、すべての機能をテストして正しい操作を確認します。

注意：MAXI MOVE が適切に機能しているかどうか疑いがある場合、または不具合がある場合は、これを使用しないで、最寄の Arjo サービス部門にご連絡ください。

点検整備に関するアドバイス

Arjo は、MAXI MOVE が定期的間隔で保守されることを推奨します。 MAXI MOVE 予防保全計画（Arjo文書番号001.25065）を参照してください。

通常の使用で以下の品目は摩耗の対象となります：スリング、バッテリー、ストラップおよびキャスター。これらの品目は、前述のように定期的にチェックされならず、必要に応じて交換してください。

警告：利用者様に使用している間は、保守及びリフトの点検整備は絶対に行わないでください。

警告：UK 向けリフトのみ：1998 年 12 月 5 日に重要な法律が施行されました。これはリフト、風呂の全高、その他の昇降機器の点検整備計画に影響があります。当該機器の所有者は以下の法規を満たさなくてはなりません：持ち上げ操作および持ち上げ機器に関する規定 （LOLER：1998） 、作業機器の提供と使用に関する規定 （PUWER 98）。当該法規に準拠するため、6 ヶ月ごとに実行される徹底的検査計画が開発されました。詳細は、 Arjo Service UK にお問い合わせください。

部品リストおよび回路図は、ご要望に応じて Arjo またはその正規販売代理店から入手可能です。補修部品は Arjo またはその正規販売代理店から提供可能です。

特定のコンポーネントの交換には特殊な工具が必要です。この製品を維持管理するために最もシンプル、安全かつ効果的な方法は、Arjo の認定補修部品を使用し、Arjo 認定代理店による系統的かつ専門的サービスを活用する方法です。

修理および保守取扱説明書を含むサービス、ならびに保守契約に関する情報は、最寄の Arjo 販売代理店にお問い合わせください。

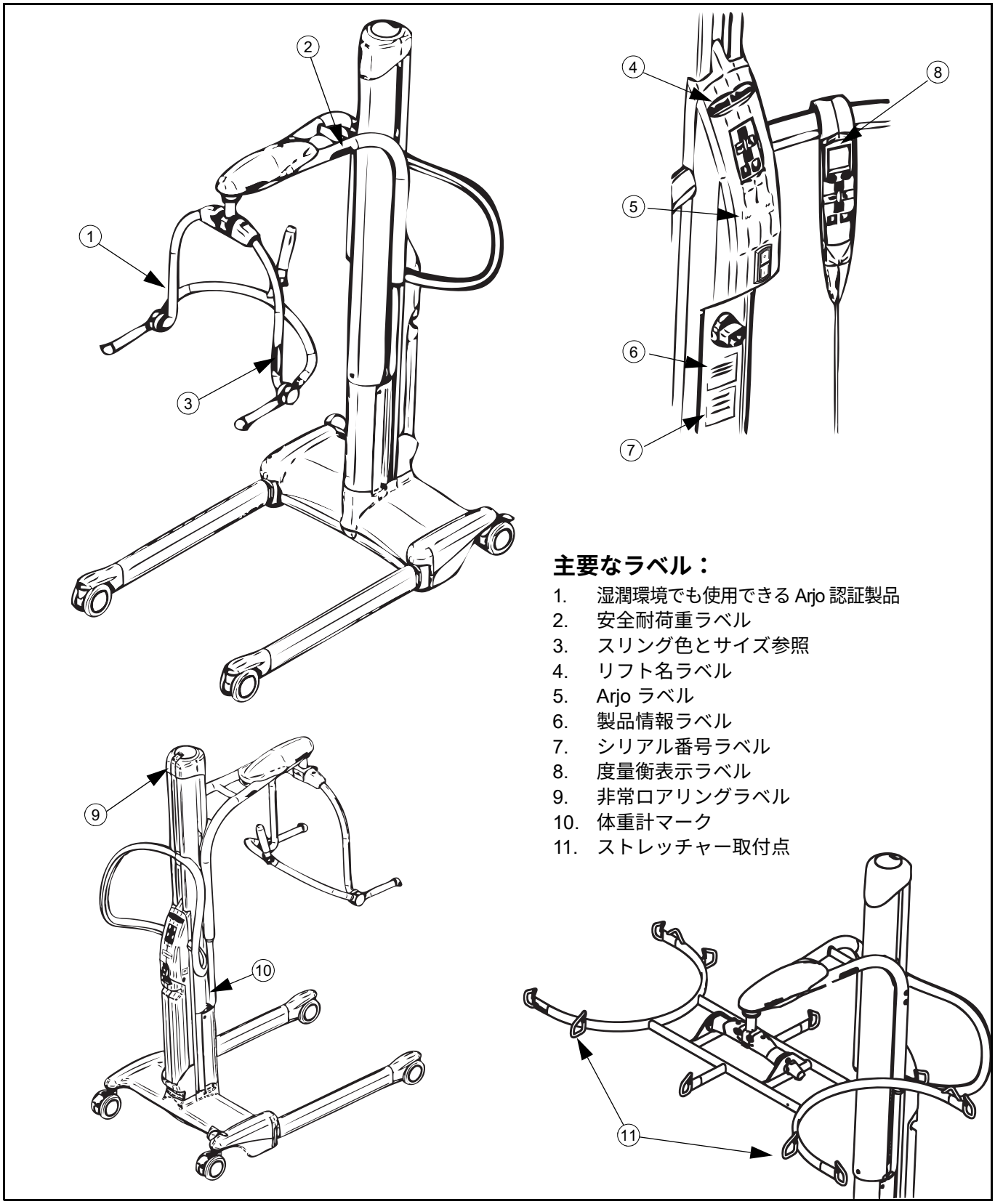
トラブルシューティング

リフトの問題	解像度
手元スイッチが応答しない	• コントロールボックスの赤色緊急停止ボタンを確認してください。 • 手元スイッチコード上のコネクタをチェックしてください。 • バッテリーを確認してください （満充電されたバッテリーと交換してください）。
コントロールボックス上の 「UP」ボタンと 「DOWN」ボタンが応答しない	• コントロールボックスの赤色緊急停止ボタンを確認してください。 • バッテリーを確認してください （満充電されたバッテリーと交換してください）。
電動式 DPS が応答しない	• コントロールボックスの赤色緊急停止ボタンを確認してください。 • 手元スイッチが接続されているかどうかチェックしてください。 • キャリーバーが適切にを取り付けられているかどうかチェックしてください。
コントロールボックスが可聴の 「ビープ音」を 30 秒ごとに 2 回発生する	• バッテリー残量が低下しています。新たに充電されたバッテリーと交換してください。
コントロールボックスが可聴の 「ビープ音」を 3 回発生し、本リフトが遮断される	• バッテリー残量が低下しています。新たに充電されたバッテリーと交換してください。
コントロールボックスが 1 秒間ビープ音を発し、手元スイッチのスクリーンの色が赤から黒に変わる	• リフトはロックされます。下ボタンを押して、ジブを下げアンロックします。
コントロールボックスが上記以外の条件で可聴のビープ音を発する	• Arjo のサービス担当者にお問い合わせください。
アクチュエータが持ち上げ中に 「失速する」	• バッテリー残量が低下しています。新たに充電されたバッテリーと交換してください。持ち上げ能力を超えないでください。

充電器問題
壁掛け式バッテリー充電器 - 取扱説明書 001-24257-** を参照してください。

バッテリーに関するトラブル	解像度
バッテリーが正しく設置されているが、ランプが点灯しない	• 修理を依頼してください （充電器が故障している可能性があります）。
数時間にわたる充電後にも黄色のインジケーターランプが消灯しない	• バッテリーを交換する必要があります。必要な場合は Arjo にご連絡の上、交換を依頼してください。
バッテリーが充電器にあるときはフル充電されたことが表示されるが、リフトに取り付けるとわずか数回の持ち上げしか行わない	• バッテリーを交換する必要があります。必要な場合は Arjo にご連絡の上、交換を依頼してください。

ラベル



主要なラベル：

1. 湿潤環境でも使用できる Arjo 認証製品
2. 安全耐荷重ラベル
3. スリング色とサイズ参照
4. リフト名ラベル
5. Arjo ラベル
6. 製品情報ラベル
7. シリアル番号ラベル
8. 度量衡表示ラベル
9. 非常ロアリングラベル
10. 体重計マーク
11. ストレッチャー取付点

図 78

技術仕様

製品情報	MAXI MOVE
総重量 （標準リブ、付属品なし）	64.5 kg
持ち上げ能力 (SWL)	標準ジブ：227 kg (500 lb) 拡張ジブ：130 kg (287 lb)
バッテリーパックの重量	5.0 kg (11 lb)
回転直径寸法	1222 mm (48 in)
最低ドア要件	717 mm (28.25 in) 標準ベース用 (KMCS**) & 低床ベース用 (KMCL**) 770 mm (30 3/8) in) 超低床ベース用 (KMCE**)
コントロールの操作力	2.5- 3N
電気仕様	
保護等級	IPx7 - 手元スイッチ IP24 - MAXI MOVE
内部電源機器	24 Vdc
バッテリータイプ	充電式 （密閉形鉛蓄電池）
バッテリー容量	24 Vdc、 4.0 Ah ～ 5.5 Ah
バッテリー充電器入力 （部品番号 NDA8200）	100 ～ 240 Vac/50 ～ 60 Hz
昇降時の電流制限	12 ± 1 Amp.
デューティサイクル	15% - 最大 2 分間の連続使用
音響出力レベル （上昇時）	61.9 dBA
音響出力レベル （下降時）	61.7 dBA
ヘルスケア・福祉機器	IEC 60601-1 に基づく感電に対する BF 型保護
本 Arjo 製品は、電磁環境適合性の要件規格 IEC 60601-1-2 に適合しています。 MAXI MOVE は 適用される規則や各国別の要求項目を含む IEC 60601-1 シリーズに適合しています。 MAXI MOVE はまた、 ISO 10535 規格に対応しています （ただし、ストレッチャーと併せて使用される場合を除く； 「MAXI MOVE の使用」セクションを参照）。	
警告：ポータブル RF 通信機器 （アンテナケーブルや外部アンテナなどの周辺機器を含む）は、メーカー指定のケーブルを含む Maxi Move リフトのすべての部品から 30 cm 以上離して使用しなければなりません。 守らない場合、この機器の性能が低下することがあります。 詳細は 「電磁両立性」セクションを参照してください。	
デジタル体重計の仕様	
計量範囲	227 kg (500 lb)
表示の解像度と形式	0.1 kg (0.2 lb)、液晶ディスプレイ
精度 （稼動時）	クラス III 2-50 kg ±50 g / 4-110 lb ±0.1 lb 50-200 kg ±100 g / 100-440 lb ±0.2 lb 200-227 kg ±150 g / 440-500 lb ±0.3 lb
操作条件と保管条件	
周囲温度の範囲	操作：5° ～ 40°C (+41° ～ +104°F) 保管：- 25° ～ 70°C (-13° ～ 158°F)
相対湿度の範囲	操作：15 ～ 93% （結露なきこと） 保管：最大 93% （結露なきこと）
大気圧の範囲	操作：795 hPa ～ 1060 hPa （最大 2000 m）保管：500 ～ 1060 hPa
警告：機器を空気や酸素、または亜酸化窒素との可燃性麻酔薬混合ガスがある所では使用、または保管しないでください。この環境下で MAXI MOVE をを使用すると、爆発の原因となることがあります。本リフトは、内部で何らかの火花が発生した場合、気体を点火する可能性があります。	
使用終了後の安全な廃棄	
バッテリー	密閉形鉛蓄電池、充電式、リサイクル可能。 製品に付属しているすべてのバッテリーは別々にリサイクルしなければなりません。 バッテリーは、国または地方条例に従って廃棄してください。
梱包	段ボール箱、リサイクル可能 発泡スチロール (EPS)、リサイクル可能

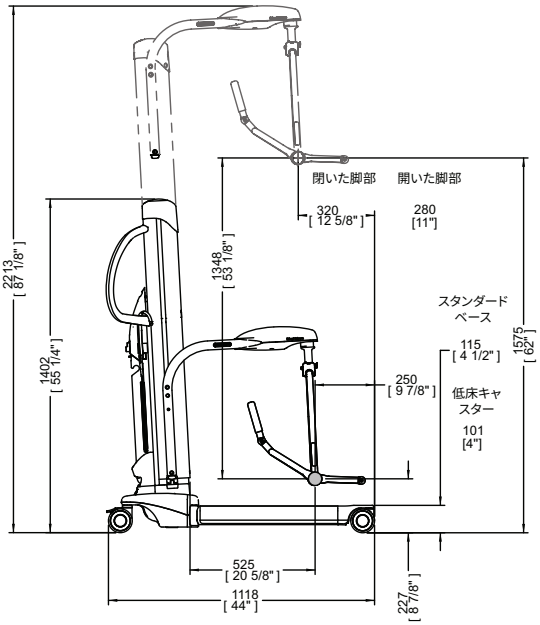
技術仕様

リフト	分別してリサイクル。 スリングバー、レール、レール保持部材のような主にさまざまな金属で構成される部品 （重量で 90% 以上が金属）は、金属としてリサイクルしてください。
電気・電子部品	電気および電子部品または電気コードがあるリフト関連製品は、電気・電子機器の廃棄 （WEEE）または地方自治体あるいは国の法令に従って分解し、リサイクルしてください。
スリング	補強材、安定材、緩衝材およびその他の繊維またはポリマー、プラスチック材等を含むスリングは、可燃性廃棄物に分類してください。

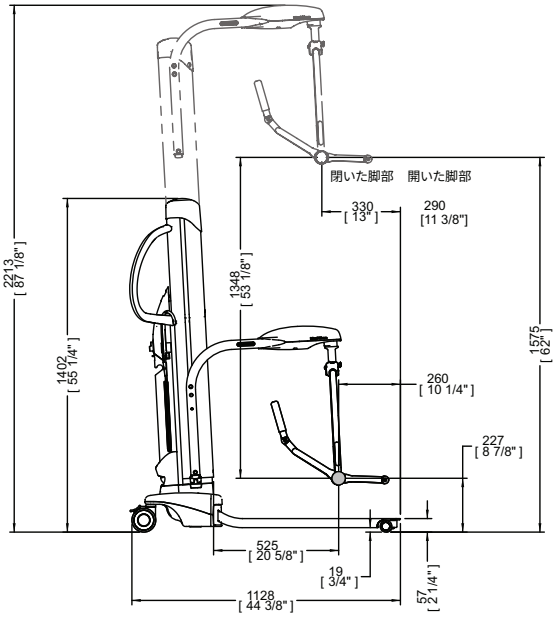
リフト寸法

1) ホイスト無負荷時寸法

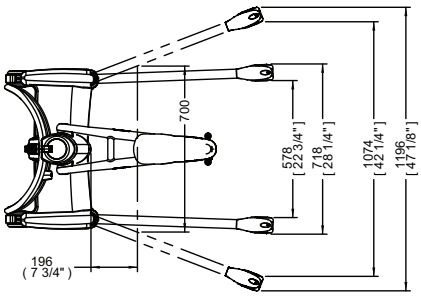
2) 寸法公差：± 10 MM （3/8"）



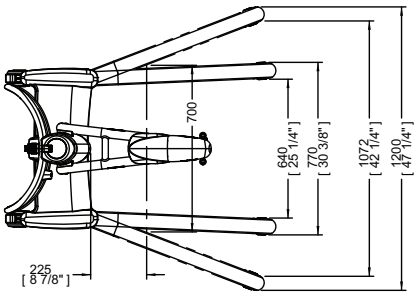
DPS スプレッダーバー搭載、標準、低床キャスター仕様（標準ジブ）の場合



DPS スプレッダーバー搭載、超低床キャスター仕様（標準ジブ）の場合



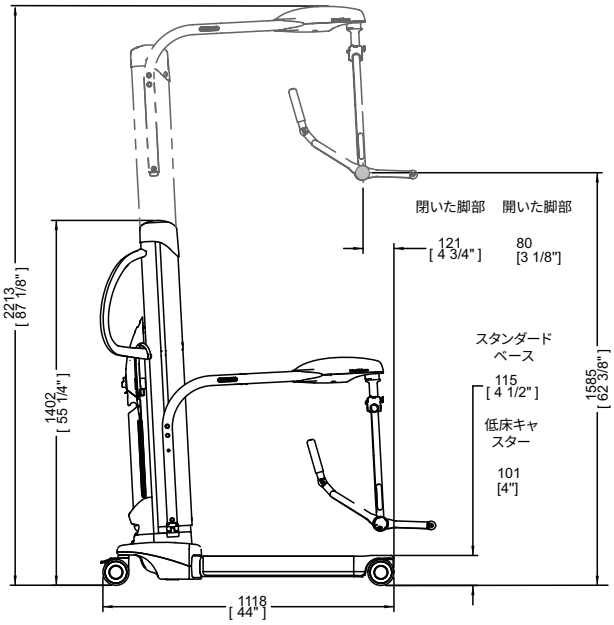
ベース寸法
スタンダードベース&ロープロファイルベース



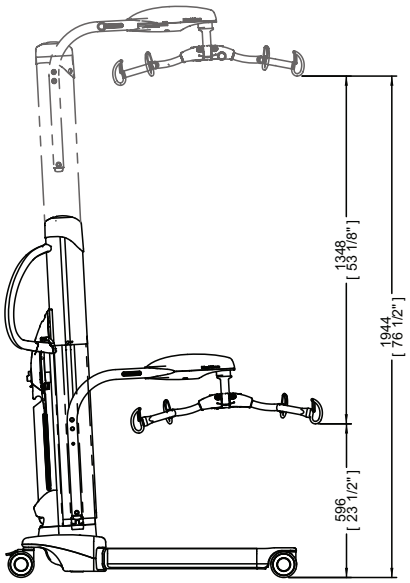
ベース寸法
超低床キャスター仕様

リフト寸法

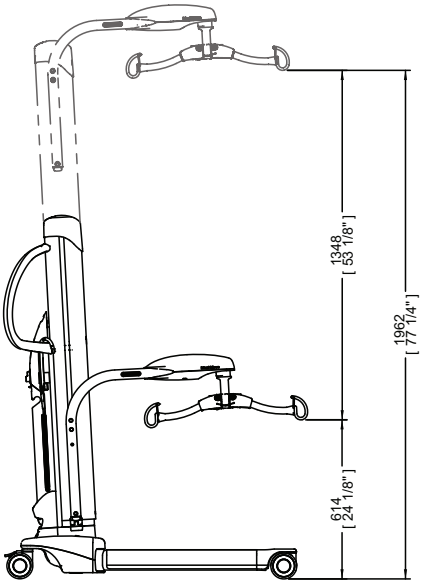
1) ホイスト無負荷時寸法
2) 寸法公差：± 10 MM （3/8"）



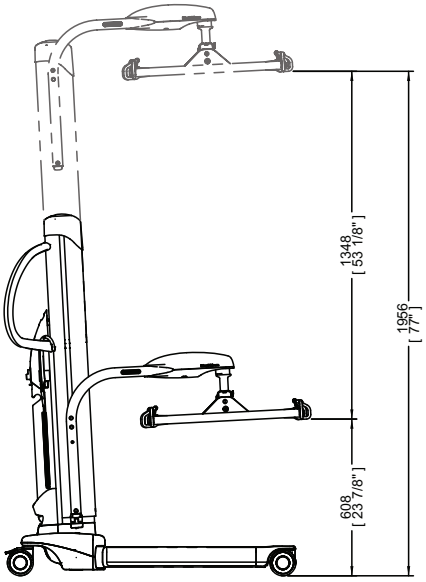
DPS スプレッダーバー搭載、スタンダードベース & ロープロファイルベース（延長ジブ）の場合



4 点式ループスプレッダーバーの場合



2 点式ループスプレッダーバーの場合



ストレッチャースプレッダーバーの場合

図 79

付録 - 体重計重力コード設定

体重計付き MAXI MOVE 床走行式リフトが欧州で販売される場合、改正後の理事会指令 90/384/EEC の要件との体重計の適合性は、 EN45501-8.2 で参照する試験によって確立されています。この適合性の検証は、本製品の引き渡しに先立って重力が調整され、体重計のマーキングで校正・重力カウンターによって封印されていることから、その使用位置でのみ有効です。

2 桁の重力コードが、使用される地理的な位置に従って本体重計に割り当てられています。このコードは、以下に記述されている手順に従うことによって閲覧することができます。

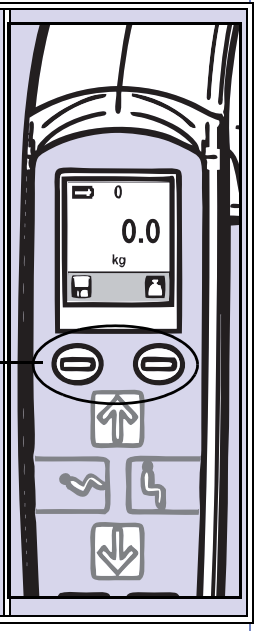
注記：この事前設定コードが 99 である場合、その体重計が使用される場所の特定の地理的な位置対応する正確な緯度と軽度に調整されていることを意味します。

注記：重力コードを操作メニューを使用して変更することはできません。詳しくは、最寄の Arjo 代理店にお問い合わせください。

重力コード設定の表示

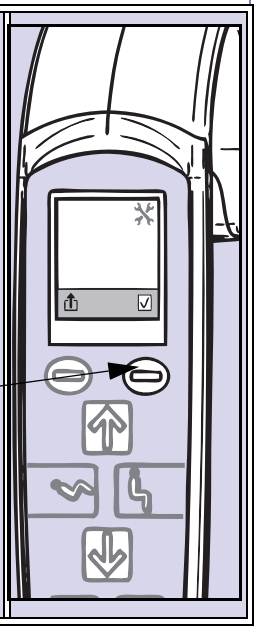
手順 1

ホイストステータス画面を表示するには両操作ボタンを同時に押します。



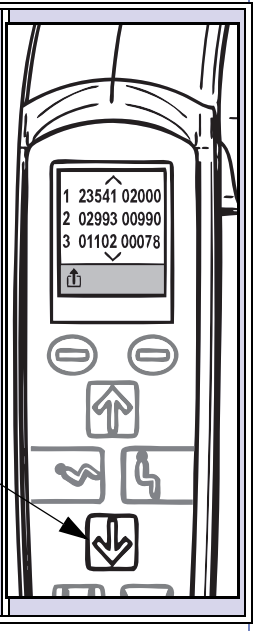
手順 2

ホイストステータス画面が表示されたら、入力ボタンを押します。



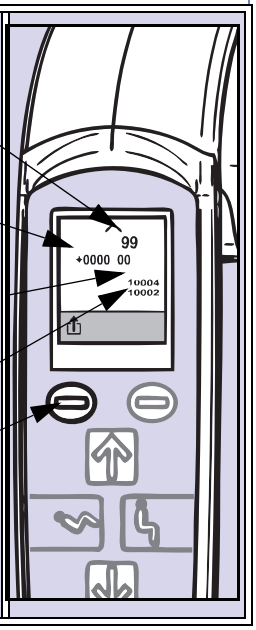
手順 3

「DOWN」ボタンを 3 回押して、重力コード設定を検索します。



手順 4

通常の体重計機能に戻るには、終了ボタンを押します。



電磁両立性

電磁コンプライアンス

MAXI MOVE は、外部環境から EMI （電磁干渉）を遮断する能力に関して現行の規制基準への準拠がテストされています。

しかしながら、一部の手順は電磁干渉の軽減に役立ちます。

- 利用者様のモニタリングおよび / または生命維持装置などが、電磁エミッション規格に準拠しているか確認してください。
- 電子医療装置間の距離を最大にしてください。高周波・高出力デバイスは本リフトに影響を与える可能性がある EMI を発生することがあります。

本製品の RF （無線周波数）電磁環境をどのように管理するかについての詳しい情報は、*AMI TIR 18-1997 - Guidance on Electromagnetic Compatibility of Medical Devices for Clinical/Biomedical Engineers（臨床技師 / 医用生体技師のための医療装置の電磁環境両立性に関するガイダンス）*を参照してください。

警告：Arjo が指定または提供していないアクセサリー、コード、交換部品を使用すると、この機器における電磁エミッションの増加または電磁イミュニティの減少を引き起こし、不適切な動作につながる可能性があります。

警告：本製品を他の機器に隣接して、または他の機器と積み重ねて使用すると、誤作動することがあります。このような使用法が必要な場合、本製品と他の機器を観察して、正常に作動しているか、まず確認してください。

警告：本製品は電波障害を起こしたり、近くの機器の動作を妨害することがあります。まわりの機器の再配線、再配置あるいは場所を隔離するなどの措置が必要になることがあります。

電磁エミッション

ガイダンス およびメーカーの宣言 - 電磁エミッション - 全機器およびシステム用		
MAXI MOVE は、以下に示す電磁環境における使用を意図しています。 MAXI MOVE の顧客またはユーザーは、製品がこの様な環境下で使用できることを確認しなければなりません。		
エミッション試験	**コンプライアンス**	**電磁環境 – ガイダンス**
RF エミッション CISPR 11	グループ 1	MAXI MOVE は、 RF エネルギーをその内部機能のためにのみ使用します。従って、その RF エミッションは非常に低いため、近隣の電子機器に何らかの影響を及ぼしにくくなっています。
RF エミッション CISPR 11	クラス B	MAXI MOVE は、家庭用施設、および家庭用に使用される建物に供給する公共低電圧電力供給ネットワークに直接接続されたものを含む、あらゆる施設での使用に適しています。

電磁両立性

電磁イミュニティ

ガイダンス およびメーカーの宣言 - 電磁イミュニティ - 全機器およびシステム用			
MAXI MOVE は以下に特定される電磁環境での使用を目的としています。 MAXI MOVE の顧客またはユーザーは、製品がこの様な環境下で使用できることを確認しなければなりません。			
イミュニティ試験	**IEC 60601 試験レベル**	**コンプライアンスレベル**	**電磁環境 – ガイダンス**
静電気放電 (ESD) IEC 61000-4-2	±8 kV contact ± 2 kV, ±4 kV, ±8 kV, ±15 kV air	±8 kV contact ± 2 kV, ±4 kV, ±8 kV, ±15 kV air	床はフローリング、コンクリートあるいはセラミックタイルにしてください。床が合成材に変更された場合、相対湿度は最低 30% にしなければなりません。
伝導性 RF IEC 61000-4-6	0.15 ～ 80 MHz 間の ISM 周波数帯外 3V 0.15 ～ 80 MHz 間の ISM およびアマチュア無線周波数帯内 6V	0.15 ～ 80 MHz 間の ISM 周波数帯外 3V 0.15 ～ 80 MHz 間の ISM およびアマチュア無線周波数帯内 6V	該当なし
放射 RF IEC 61000-4-3	10 V/m 80 MHz ～ 2.7 GHz	10 V/m 80 MHz ～ 2.7 GHz	該当なし
電気的ファースト・トランジェント / バースト IEC 61000-4-4	±1 kV 入出力ポート用 100 kHz 繰返し 周波数	±1 kV 入出力ポート用 100 kHz 繰返し周波数	主電源は一般的な商用あるいは病院環境のものを使用してください。
電源周波数 (50/60 Hz) 磁界 IEC 61000-4-8	30 A/m 50/60 Hz	30 A/m 50/60 Hz	電力周波数磁場は、一般商用または病院環境での典型的な場所での特性レベルである必要があります。
RF 無線通信機器の近接フィールド IEC 61000-4-3 （続く）	380 ~ 390 MHz 27 V/m; PM 50%; 18 Hz 430 ~ 470 MHz 28 V/m; (FM ±5 kHz, 1 kHz sine) PM; 18 Hz 704 ~ 787 MHz 9 V/m; PM 50%; 217 Hz	380 ~ 390 MHz 27 V/m; PM 50%; 18 Hz 430 ~ 470 MHz 28 V/m; (FM ±5 kHz, 1 kHz sine) PM; 18 Hz 704 ~ 787 MHz 9 V/m; PM 50%; 217 Hz	該当なし

電磁両立性

イミュニティ試験	IEC 60601 試験レベル	コンプライアンスレベル	電磁環境 – ガイダンス
（続く） RF 無線通信機器の近接フィールド IEC 61000-4-3	800 ~ 960 MHz 28 V/m; PM 50%; 18 Hz 1700 ~ 1990 MHz 28 V/m; PM 50%; 217 Hz 2400 ~ 2570 MHz 28 V/m; PM 50%; 217 Hz 5100 ~ 5800 MHz 9 V/m; PM 50%; 217 Hz	800 ~ 960 MHz 28 V/m; PM 50%; 18 Hz 1700 ~ 1990 MHz 28 V/m; PM 50%; 217 Hz 2400 ~ 2570 MHz 28 V/m; PM 50%; 217 Hz 5100 ~ 5800 MHz 9 V/m; PM 50%; 217 Hz	該当なし

意図的に空白

AUSTRALIA
Arjo Australia
Building B, Level 3
11 Talavera Road
Macquarie Park, NSW, 2113,
Australia
Phone: 1800 072 040

BELGIQUE / BELGIË
Arjo Belgium
Evenbroekveld 16
9420 Erpe-Mere
Phone: +32 (0) 53 60 73 80
Fax: +32 (0) 53 60 73 81
E-mail: info.belgium@arjo.com

BRASIL
Arjo Brasil Equipamentos Médicos Ltda
Rua Marina Ciufuli Zanfelice, 329 PB02
Galpão - Lapa
São Paulo – SP – Brasil
CEP: 05040-000
Phone: 55-11-3588-5088
E-mail: vendas.latam@arjo.com
E-mail: servicios.latam@arjo.com

CANADA
Arjo Canada Inc.
90 Matheson Boulevard West
Suite 350
CA-MISSISSAUGA, ON, L5R 3R3
Tel/Tél: +1 (905) 238-7880
Free: +1 (800) 665-4831
Fax: +1 (905) 238-7881
E-mail: info.canada@arjo.com

ČESKÁ REPUBLIKA
Arjo Czech Republic s.r.o.
Na Strzi 1702/65
140 00 Praha
Czech Republic
Phone No: +420225092307
E-mail: info.cz@arjo.com

DANMARK
Arjo A/S
Vassingerødvej 52
DK-3540 LYNGE
Tel: +45 49 13 84 86
Fax: +45 49 13 84 87
E-mail: dk_kundeservice@arjo.com

DEUTSCHLAND
Arjo GmbH
Peter-Sander-Strasse 10
DE-55252 MAINZ-KASTEL
Tel: +49 (0) 6134 186 0
Fax: +49 (0) 6134 186 160
E-mail: info-de@arjo.com

ESPAÑA
ARJO IBERIA S.L.
Poligono Can Salvatella
c/ Cabanyes 1-7
08210 Barberà del Valles
Barcelona - Spain
Telefono 1: +34 900 921 850
Telefono 2: +34 931 315 999

FRANCE
Arjo SAS
2 Avenue Alcide de Gasperi
CS 70133
FR-59436 RONCQ CEDEX
Tél: +33 (0) 3 20 28 13 13
Fax: +33 (0) 3 20 28 13 14
E-mail: info.france@arjo.com

HONG KONG
Arjo Hong Kong Limited
Room 411-414, 4/F, Manhattan Centre,
8 Kwai Cheong Road, Kwai Chung, N.T.,
HONG KONG
Tel: +852 2960 7600
Fax: +852 2960 1711

ITALIA
Arjo Italia S.p.A.
Via Giacomo Peroni 400-402
IT-00131 ROMA
Tel: +39 (0) 6 87426211
Fax: +39 (0) 6 87426222
E-mail: Italy.promo@arjo.com

MIDDLE EAST
Arjo Middle East FZ-LLC
Office 908, 9th Floor,
HQ Building,North Tower,
Dubai Science Park,
Al Barsha South
P.O. Box 11488, Dubai,
United Arab Emirates
Direct +971 487 48053
Fax +971 487 48072
Email: Info.ME@arjo.com

NEDERLAND
Arjo Nederland BV
Biezenwei 21
4004 MB TIEL
Postbus 6116
4000 HC TIEL
Tel: +31 (0) 344 64 08 00
Fax: +31 (0) 344 64 08 85
E-mail: info.nl@arjo.com

NEW ZEALAND
Arjo Ltd
34 Vestey Drive
Mount Wellington
NZ-AUCKLAND 1060
Tel: +64 (0) 9 573 5344
Free Call: 0800 000 151
Fax: +64 (0) 9 573 5384
E-mail: nz.info@Arjo.com

NORGE
Arjo Norway AS
Olaf Helsets vei 5
N-0694 OSLO
Tel: +47 22 08 00 50
Faks: +47 22 08 00 51
E-mail: no.kundeservice@arjo.com

ÖSTERREICH
Arjo Austria GmbH
Lemböckgasse 49 / Stiege A / 4.OG
A-1230 Wien
Tel: +43 1 8 66 56
Fax: +43 1 866 56 7000

POLSKA
Arjo Polska Sp. z o.o.
ul. Ks Piotra Wawrzyniaka 2
PL-62-052 KOMORNIKI (Poznań)
Tel: +48 61 662 15 50
Fax: +48 61 662 15 90
E-mail: arjo@arjo.com

PORTUGAL
Arjo em Portugal
MAQUET Portugal, Lda.
(Distribudor Exclusivo)
Rua Poeta Bocage n.º 2 - 2G
PT-1600-233 Lisboa
Tel: +351 214 189 815
Fax: +351 214 177 413
E-mail: Portugal@arjo.com

SUISSE / SCHWEIZ
Arjo Switzerland AG
Fabrikstrasse 8
Postfach
CH-4614 HÄGENDORF
Tél/Tel: +41 (0) 61 337 97 77
Fax: +41 (0) 61 311 97 42

SUOMI
Arjo Scandinavia AB
Riihitontuntie 7 C
02200 Espoo
Finland
Puh: +358 9 6824 1260
E-mail: Asiakaspalvelu.finland@arjo.com

SVERIGE
Arjo International HQ
Hans Michelsensgatan 10
SE-211 20 MALMÖ
Tel: +46 (0) 10 494 7760
Fax: +46 (0) 10 494 7761
E-mail: kundservice@arjo.com

UNITED KINGDOM
Arjo UK and Ireland
Houghton Hall Park
Houghton Regis
UK-DUNSTABLE LU5 5XF
Tel: +44 (0) 1582 745 700
Fax: +44 (0) 1582 745 745
E-mail: sales.admin@arjo.com

USA
Arjo Inc.
2349 W Lake Street Suite 250
US-Addison, IL 60101
Tel: +1 (630) 307-2756
Free: +1 (800) 323-1245
Fax: +1 (630) 307 6195
E-mail: us.info@arjo.com

JAPAN
Arjo Japan K.K.
東京都港区虎ノ門三丁目7 番8 号
ランディック第2 虎ノ門ビル9 階
Tel: +81 (0)3-6435-6401
Fax: +81 (0)3-6435-6402
E-mail: info.japan@arjo.com

At Arjo, we are committed to improving the everyday lives of people affected by reduced mobility and age-related health challenges. With products and solutions that ensure ergonomic patient handling, personal hygiene, disinfection, diagnostics, and the effective prevention of pressure ulcers and venous thromboembolism, we help professionals across care environments to continually raise the standard of safe and dignified care. Everything we do, we do with people in mind.

ArjoHuntleigh AB
Hans Michelsensgatan 10
211 20 Malmö, Sweden
www.arjo.com

001.25060.JP

CE 2797